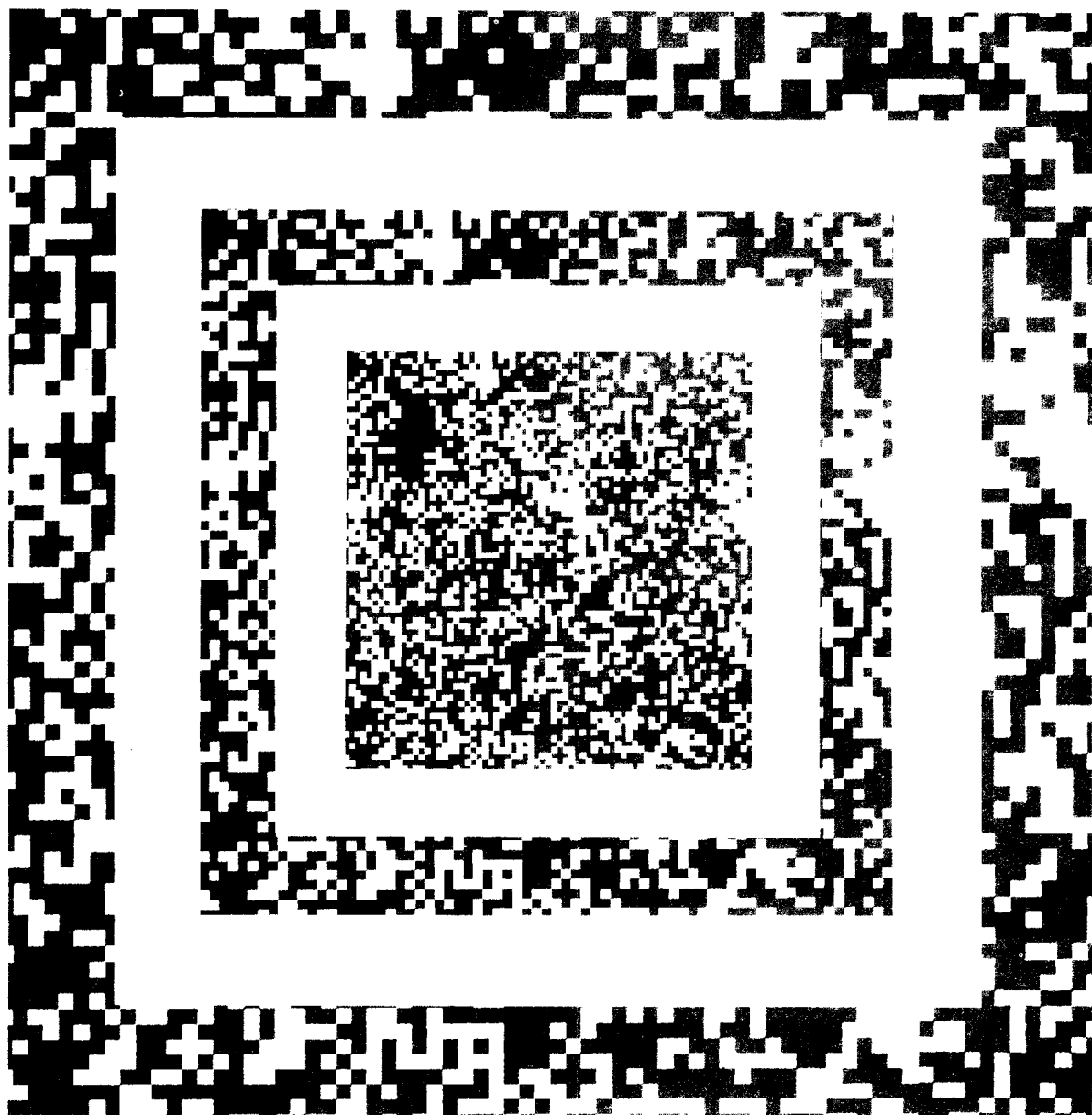


YAMAHA

PortaSound

PSS-51

取扱説明書



このたびは、ヤマハポータサウンドPSS-51をお買い求めいただきましてありがとうございます。

本書は、PSS-51でどんなことができるか手順を追って試してみる「入門編」と、1つ1つの機能を詳しく説明した「機能編」に分れています。初めてポータサウンドをお使いになる方は入門編から、また、他のポータサウンドからステップアップされた方も一通り入門編に目を通していただくことをお勧めいたします。

なお、本書はお読みにになった後も不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管してください。

PSS-51の特徴

1 豊富でリアルなサウンド

ヤマハの誇る最新のデジタル技術を使ったAWM音源システムにより、個々の楽器の持つ音をリアルに再現します。ピアノ、パイプオルガンなどのキーボードボイス（音色）を始め、ストリングスボイスからパーカッションボイスなど100ボイス（同時発音数28）に加え、それぞれのボイスエフェクトの設定を変えることで無限に演奏の可能性が広がります。

2 自動伴奏機能で広がる演奏バリエーション

80種類もの様々なジャンルのリズムスタイルとバラエティー豊かなオートアカンパニメント（自動伴奏機能）が演奏をサポートします。伴奏が苦手な初心者の方も手軽に演奏が楽しめます。

3 ワンタッチでボイスのエフェクトを設定できるレジストレーションメモリー機能

伴奏スタイルにピッタリのサウンドをワンタッチでセットすることができます。また、オリジナルのサウンドをメモリーし、ワンタッチで呼び出すこともできます。

4 充実のパーカッション&サウンドエフェクト（効果）パッド

各10セットのパーカッションサウンドやエフェクトサウンド（効果音）が演奏に厚みを加えます。それぞれのパッドにパーカッションサウンドやエフェクトサウンドを自由に設定することもできます。

5 オリジナルの音色が楽しめるベクターシンセ機能

ジョイスティックを使って4音色をミックスすれば、オリジナル音色が楽しめます。

6 多目的なホイール機能

ホイールを動かせば、シンセサイザー特有のピッチベンド、モジュレーションのホイールテクニックに加え、リズムテンポのコントロールもできます。

7 本格的なマルチトラックレコーディング

ソングメモリー機能を使ってマルチトラックレコーディングが簡単に楽しめます。オリジナルソングの作曲やマイナスイワン（メロディーカラオケ）練習にも使えます。

8 高品質ステレオスピーカー

低音の再現性を重視した、ハイファイスピーカーの迫力あるサウンドがAWM音源システムを引き立てます。

9 音楽の可能性を広げるMIDI機能

シンセサイザーやシーケンサー、さらにパソコンなどとMIDIケーブルで接続すれば、楽しみがさらに広がります。

ご使用になる前に

ご注意

長時間ご使用にならないときは…



- ・電源スイッチを切ってください。
- ・電源アダプターを使用したときは、家庭用コンセントから抜いてください。
- ・乾電池を使用したときは、乾電池を取り出してください。

こんな所には置かないでください。変形、変色、故障の原因になります。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所。
- ・日中の車の中。
- ・温度の特に低い場所。
- ・湿気やホコリの多い場所。
- ・振動の多い場所。

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビの近くで使うと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください。



- ・落としたり、物をおつけたり、上に物を置かないでください。また、ボタン操作時や鍵盤押鍵時、プラグの接続時などにも必要以上の力を加えることは避けてください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布でカラおきしてください。また汚れのひどいときは、少し水で湿らせた布でふいてください。(アルコールやシンナー類は、外装を傷めますので絶対に使用しないでください。)
- ・ビニール製品を上には置かないでください。貼り付いて痕が残ってしまうことがあります。

メモリーバックアップ



- ・PSS-51のメモリーは、電力が供給されない場合(乾電池が弱くなったり、電源アダプターが接続されていない場合)、メモリー内に保存してあるデータが消失して、初期設定の状態に戻ります。大切なソングメモリーデータやレジストレーションメモリーデータなどは、他のMIDI機器に保存しておくか、メモに書き留めておくことをお勧めします。

音楽を楽しむエチケット



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

ご使用になる前に

ご注意	1
目次	2
準備	
電源の準備	4
他の機器との接続	5
各部の名称とはたらき	
操作パネル	6
付属端子	7

入門編

電源を入れてみよう	8
デモを聴いてみよう	9
ボイス（音色）を選んで弾いてみよう	10
リズムスタイルを選んで鳴らしてみよう	11
オートアカンパニメント（自動伴奏）を使って演奏してみよう	12
パーカッションパッドをたたいてみよう	14
サウンドエフェクトパッドを鳴らしてみよう	15
ホイールを使ってみよう	16
ベクターシンセを使ってみよう	17
録音してみよう	18

機能編

ボイス（音色）	
ボイス（演奏に使うボイスを選ぶ）	20
ボイスエフェクト	
ボリューム（ボイスボリュームを設定する）	22
ハーモニー（ボイスにハーモニー効果をかける）	22
サステイン（ボイスにサステイン効果をかける）	23
リバーブ（ボイスにリバーブ効果をかける）	23
オートアカンパニメント（自動伴奏）	
スタイル（演奏に使うリズムスタイルを選ぶ）	24
テンポ（演奏に適したテンポを設定する）	25
アンプボリューム（アカンパニメントのボリュームを設定する）	25
フィンガリング（オートアカンパニメントのモードを決める）	26
シングルフィンガーモード	26
フィンガードモード	27
オーケストレーション	
（オートアカンパニメントのパート構成を決める）	28

アカンパニメントコントロール (アカンパニメントパターンやアカンパニメントの スタートストップなどをコントロールする)	29
レジストレーションメモリー (スタイルに合ったレジストレーションをワンタッチでセットする)	31
演奏バリエーション	
パーカッションパッド (パッドをたたいて打楽器音を鳴らす)	32
サウンドエフェクトパッド (パッドを押してサウンドエフェクトを鳴らす)	34
ベクターシンセ (4音色をミックスして鳴らす)	36
ホイール (ピッチベンドやモジュレーション、アカンパニメントの テンポをホイールで変更する)	37
ソングメモリー	
録音トラックとは?	38
基本的な録音の手順	38
録音の準備	39
録音	39
再生	41
録音したソングデータの修正	41
ソングメモリーで多重録音してみよう	43
その他の機能	
トランスポーズ (押鍵音を移調する)	46
チューニング (押鍵音の音程を調整する)	46
MIDI	
MIDIとは?	47
PSS-51のMIDI操作	49
PSS-51のMIDI送受信データ	51
MIDIインプリメンテーションチャート	55

資料

ボイス同時発音数表	56
エラーメッセージ一覧	57
PSS-51のすべての設定を工場出荷時の初期設定に戻す方法	57
故障かな?と思ったら	58
索引	59
仕様	60
オプション (別売) 商品のご紹介	60
アフターサービスと保証	61

準備

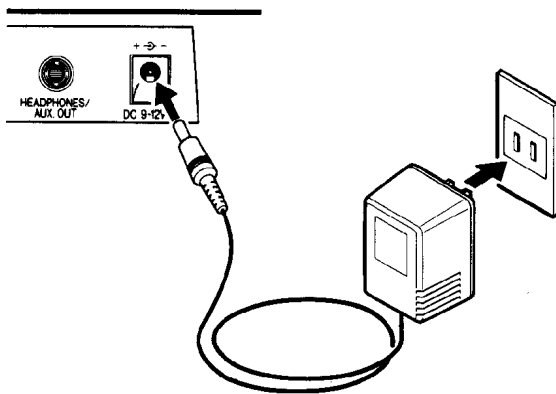
電源の準備

PSS-51は電源として、家庭用コンセントと乾電池の両方を使うことができます。家庭用コンセントをご使用になる場合には別売の専用アダプターPA-3をお使いください。

家庭用コンセントから電源をとる場合

別売の電源アダプターPA-3を使用します。図のように接続してください。

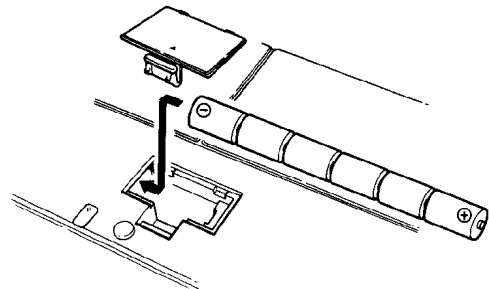
- ① アダプターのプラグを、PSS-51のリアパネルにある電源アダプター用端子（DC 9-12V IN）へ差し込みます。
- ② アダプターを家庭用（AC100V）コンセントに差し込みます。



※電源アダプターをご使用になる場合は、必ず別売の専用アダプターPA-3をご使用ください。他の電源アダプターをご使用になると、PSS-51またはアダプター側に何らかの障害や発熱、発火の起こる可能性があります。このような場合、保証期間内でも保証できない場合がありますので、充分ご注意ください。

乾電池を使う場合

- ① POWER（パワー）スイッチを切ります。
- ② PSS-51を裏返し、乾電池格納の裏ボタンをはずします。
- ③ 市販の乾電池（単2乾電池）を6本入れます。イラストに合わせて向きを間違えないように入れてください。
- ④ 乾電池格納の裏ボタンを閉めます。



※乾電池が入っていても、電源アダプターが接続されると、自動的に電源アダプターから電源が供給されるように切り替わります。

※乾電池は目安として、デモ演奏状態（ボリューム最大）でマンガン電池約2時間、アルカリ電池約5時間ご使用になれますが、お早めにお取り替えいただくことをお勧めいたします。電池が少なくなると、音がひずんだり、演奏やリズムなどが途中でストップしたり、マルチディスプレイに“bat”が表示され、録音中、再生中の曲の一部が失われることがあります。このようなときは、6本とも新しい乾電池（同じメーカー、同じ種類）と交換してください。乾電池のお買い求めの際は、「単2乾電池6本」とご指定ください。

※長時間ご使用にならない場合は、液もれ防止のため乾電池を取り出してください。

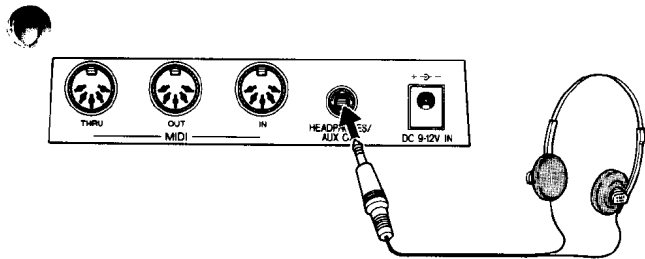
他の機器との接続

PSS-51は出力のためにステレオスピーカーが用意されていますが、その他に、リアパネルのHEADPHONES/AUX. OUT端子を使って外部出力機器から音を出すことができます。

※HEADPHONES/AUX. OUT端子に接続プラグを差し込むと、PSS-51本体のスピーカーから音が出なくなります。

ヘッドフォン

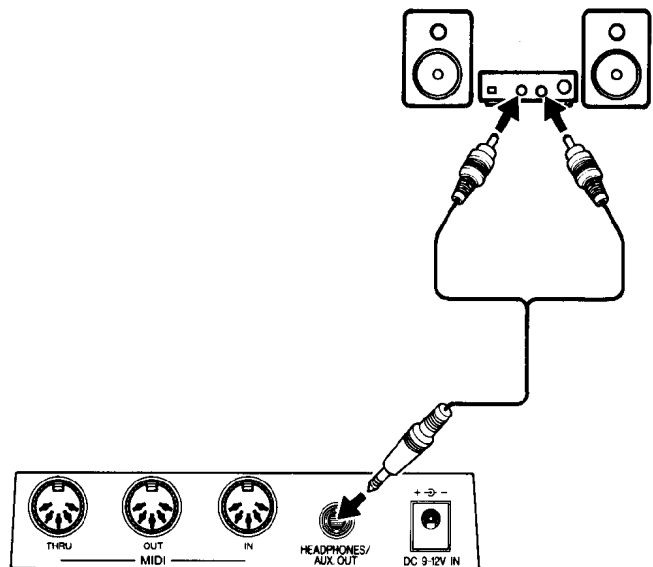
一人で静かに練習するときや、夜間に演奏するときには、ステレオヘッドフォン（別売ヤマハHPE-3、5など）をHEADPHONES/AUX. OUT端子に接続してお使いください。



※長時間の使用や、大きな音でヘッドフォンを使用すると耳に障害が起きる場合があります。ヘッドフォンを使う場合は、耳の健康などに充分注意してご使用ください。

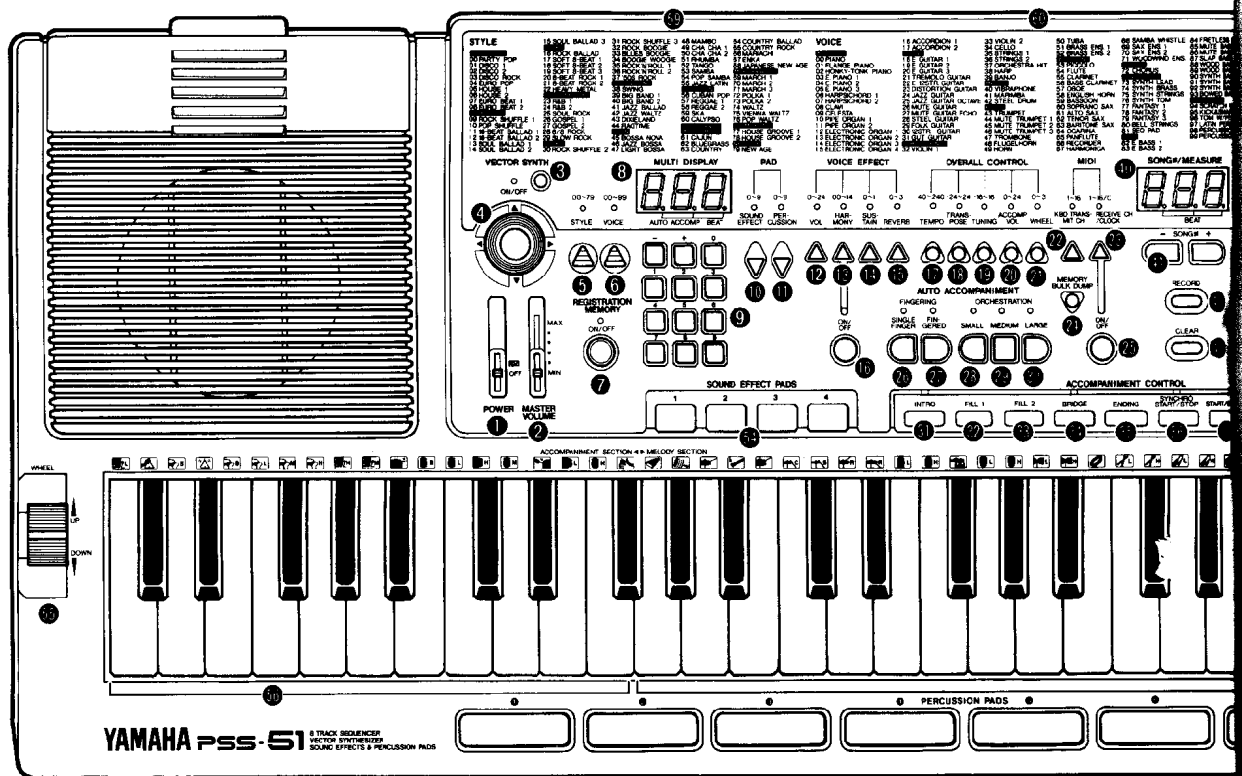
ステレオ、キーボードアンプなど

- ① PSS-51とステレオなどの外部出力機器の電源がオフになっていることを確認します。このときステレオの音量はしぼっておきます。
- ② オーディオ接続用コード（ステレオ出力用）を用意して、まずPSS-51のHEADPHONES/AUX. OUT端子とステレオのLINE INまたはAUX IN端子などの外部入力端子につなぎます。（モノラル出力用のオーディオ接続コードも使用できます）
- ③ PSS-51の電源を入れます。
- ④ ステレオの電源を入れます。
- ⑤ PSS-51を弾きながら、ステレオの音量を調節します。



※PSS-51のマスターボリュームでも音量の調節ができます。

各部の名称とはたらき



《操作パネル》

セットアップ

ページ

- ① [POWER] パワースイッチ 8
- ② [MASTER] マスターボリューム 8

ベクターシンセサイザー

- ③ [VECTOR SYNTH ON/OFF] ベクターシンセオン/オフボタン 36
- ④ [VECTOR SYNTH] ベクターシンセジョイスティック 36

スタイル

- ⑤ [STYLE] スタイルボタン 24

ボイス (音色)

- ⑥ [VOICE] ボイス (音色) ボタン 20

レジストレーションメモリー

- ⑦ [REGISTRATION MEMORY ON/OFF] レジストレーションメモリーオン/オフボタン 31

マルチディスプレイ

- ⑧ [MULTI DISPLAY] マルチディスプレイ 20

テンキー

- ⑨ [+], [-], [0]~[9] 20

パッド (PAD)

- ⑩ [SOUND EFFECT] サウンドエフェクトボタン 34
- ⑪ [PERCUSSION] パーカッションボタン 32

ボイスエフェクト

ページ

- ⑫ [VOLUME] ボリュームボタン 22
- ⑬ [HARMONY] ハーモニーボタン 22
- ⑭ [SUSTAIN] サステインボタン 23
- ⑮ [REVERB] リバーブボタン 23
- ⑯ [HARMONY ON/OFF] ハーモニーオン/オフボタン 22

オーバーオールコントロール

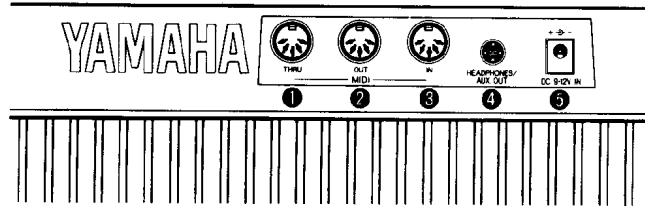
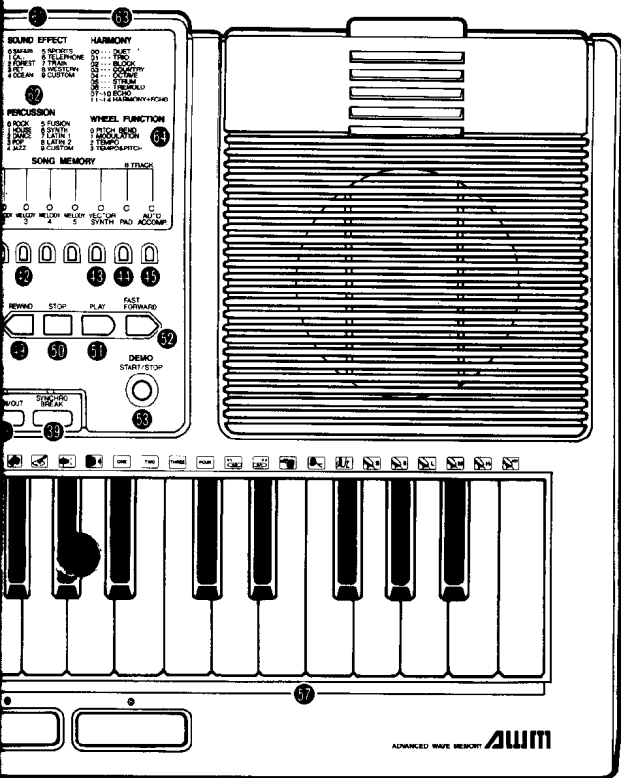
- ⑰ [TEMPO] テンポボタン 25
- ⑱ [TRANSPOSE] トランスポーズボタン 46
- ⑲ [TUNING] チューニングボタン 46
- ⑳ [ACCOMP. VOL.] アCOMPボリュームボタン 25
- ㉑ [WHEEL] ホイールボタン 37

MIDI (ミディ)

- ㉒ [KBD TRANSMIT CH] キーボード送信チャンネルボタン 49
- ㉓ [RECEIVE CH/CLOCK] 受信チャンネル/クロックボタン 49
- ㉔ [MEMORY BULK DUMP] メモリーバルクダンプボタン 50
- ㉕ [RECEIVE CH/CLOCK ON/OFF] 受信チャンネル/クロックオンオフボタン 49

オートアカンパニメント (自動伴奏)

- ◆フィンガリング
- ㉖ [SINGLE FINGER] シングルフィンガーボタン 26
- ㉗ [FINGERED] フィンガードボタン 27



《付属端子》

ページ

- ① [MIDI THRU] MIDIスルー端子 48
- ② [MIDI OUT] MIDIアウト端子 48
- ③ [MIDI IN] MIDIイン端子 48
- ④ [HEADPHONES/AUX.OUT]
ヘッドホン/AUX出力端子 5
- ⑤ [DC 9-12V IN]電源アダプター接続用端子 4

◆オーケストレーション

ページ

- ②8 [SMALL]スモールボタン 28
- ②9 [MEDIUM]ミディアムボタン 28
- ③0 [LARGE]ラージボタン 28

アカンパニメント (伴奏) コントロール

- ③1 [INTRO]イントロボタン 29
- ③2 [FILL 1]フィル1ボタン 29
- ③3 [FILL 2]フィル2ボタン 29
- ③4 [BRIDGE]ブリッジボタン 29
- ③5 [ENDING]エンディングボタン 29
- ③6 [SYNCHRO START/STOP]
シンクロススタート/ストップボタン 30
- ③7 [START/STOP]スタート/ストップボタン 30
- ③8 [FADE IN/OUT]フェードイン/アウトボタン 30
- ③9 [SYNCHRO BREAK]シンクロブレイクボタン 30

ソングメモリー

- ④0 [SONG#/MEASURE]
ソング番号/メジャーディスプレイ 39
- ④1 [SONG#]ソング番号選択ボタン 39
- ④2 [MELODY 1~5]メロディートラック1~5ボタン .. 39
- ④3 [VECTOR SYNTH]ベクターシンセトラックボタン .. 39
- ④4 [PAD]パッドトラックボタン 39
- ④5 [AUTO ACCOMP.]
オートアカンパニメントトラックボタン 39
- ④6 [RECORD]レコードボタン 39
- ④7 [CLEAR]クリアボタン 41
- ④8 [RESET]リセットボタン 41
- ④9 [REWIND]巻き戻しボタン 41

ページ

- ⑤0 [STOP]ストップボタン 40
- ⑤1 [PLAY]プレイボタン 40
- ⑤2 [FAST FORWARD]早送りボタン 41

デモ

- ⑤3 [DEMO START/STOP]デモスタート/ストップボタン ... 9

サウンドエフェクト

- ⑤4 [SOUND EFFECT PADS]サウンドエフェクトパッド 34

ホイール

- ⑤5 [WHEEL]ホイール 37

鍵盤

- ⑤6 [ACCOMPANIMENT SECTION]
アカンパニメント用鍵域 26
- ⑤7 [MELODY SECTION]メロディー用鍵域 26

パーカッション

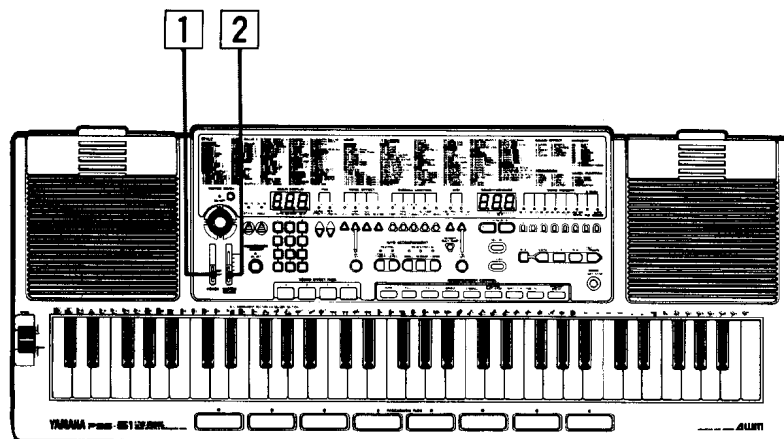
- ⑤8 [PERCUSSION PADS]パーカッションパッド 32

リスト

- ⑤9 [STYLE]スタイルリスト 24
- ⑥0 [VOICE]ボイス (音色) リスト 20
- ⑥1 [SOUND EFFECT]サウンドエフェクトリスト 34
- ⑥2 [PERCUSSION]パーカッションリスト 32
- ⑥3 [HARMONY]ハーモニーリスト 22
- ⑥4 [WHEEL FUNCTION]ホイール機能リスト 37

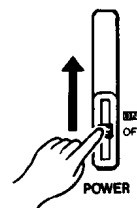
入門編

電源を入れてみよう



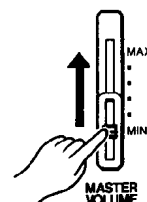
1 [POWER]スイッチをオンにする

・電源を入れる前にスピーカー保護のため、ボリュームを絞っておきます。

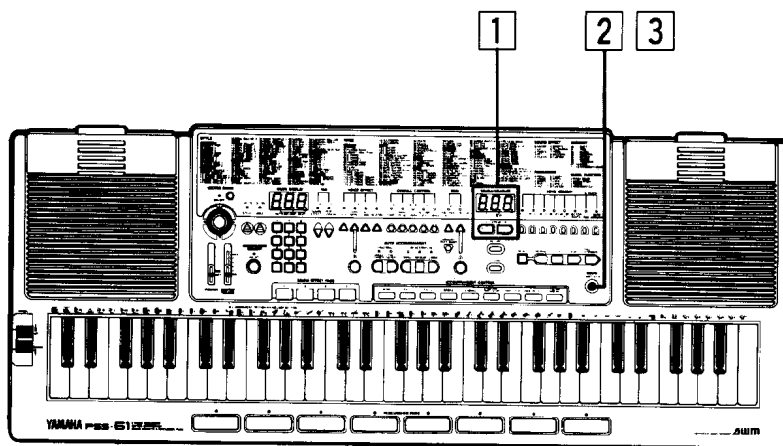


2 [MASTER VOLUME]で音量を上げる

適度な音量になるよう調節します。



デモを聴いてみよう

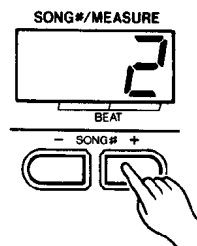


PSS-51には、デモソングが3曲内蔵されています。

1 [SONG#]選択ボタン[+]または[-]を押す

[SONG#]選択ボタンを押して、デモソング番号を選びます。
ソング番号はソング番号/メジャーディスプレイに表示されます。

・ソング番号4以上を指定した場合は、1曲目からの再生になります。



2 [DEMO START/STOP]ボタンを押す

[DEMO START/STOP]ボタンを押すと、デモソングがスタートします。

・デモソング演奏中でも鍵盤演奏やパッドプレイができます。曲に合わせて演奏してみましょう。



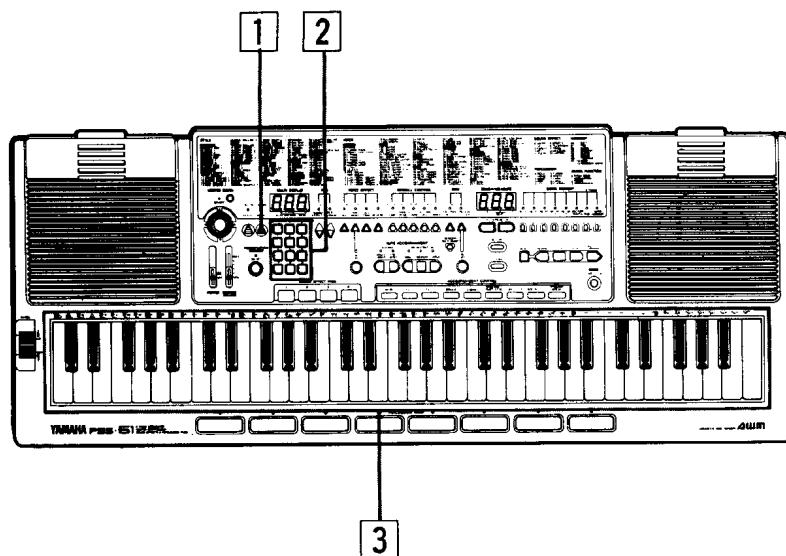
3 もう一度[DEMO START/STOP]ボタンを押す

もう一度[DEMO START/STOP]ボタンを押すと、デモソングがストップします。

- ・3曲のデモソングは、[DEMO START/STOP]ボタンが押されるまで繰り返し再生されます。
- ・デモソングは[DEMO START/STOP]ボタンの他にも、ソングメモリー[STOP]ボタン、アカンパニメントコントロール[START/STOP]ボタンでもストップすることができます。



ボイス（音色）を選んで弾いてみよう



PSS-51は100種類のボイスをもっています。パネル上部のボイスリストを参考にして、ボイスを選んでください。

1 [VOICE]ボタンを押す

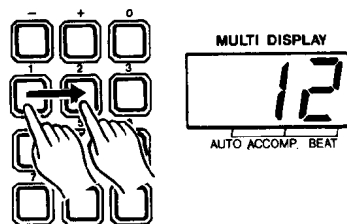
[VOICE]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のボイス番号が表示されます。

00~99
VOICE



2 ボイス番号を入力

テンキーを使ってボイス番号を入力します。例えば、“No.12 ELECTRONIC ORGAN 1（エレクトロニックオルガン1）”を選ぶ場合、[1]それから[2]ボタンを押します。

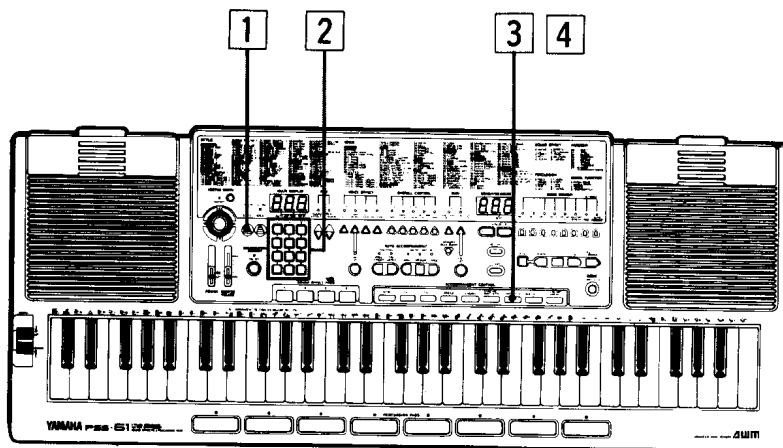


3 鍵盤を弾く

鍵盤を弾いて、選んだボイスを聴いてみましょう。

（詳細は20ページ）

リズムスタイルを選んで鳴らしてみよう



PSS-51は80種類のリズムスタイルをもっています。パネル上部のスタイルリストを参考にして、リズムスタイルを選んでください。

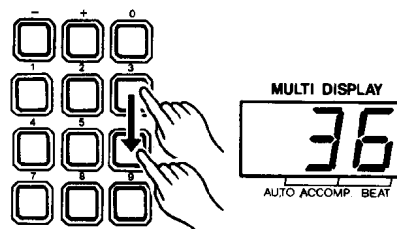
1 [STYLE]ボタンを押す

[STYLE]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のリズムスタイル番号が表示されます。



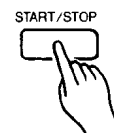
2 リズムスタイル番号を入力

テンキーを使ってリズムスタイル番号を入力します。例えば、“No.36 ROCK'N' ROLL 2 (ロックンロール2)” を選ぶ場合、[3]それから[6]ボタンを押します。



3 アカンパニメントコントロールの[START/STOP]ボタンを押す

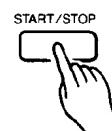
[START/STOP]ボタンを押すとリズムがスタートします。



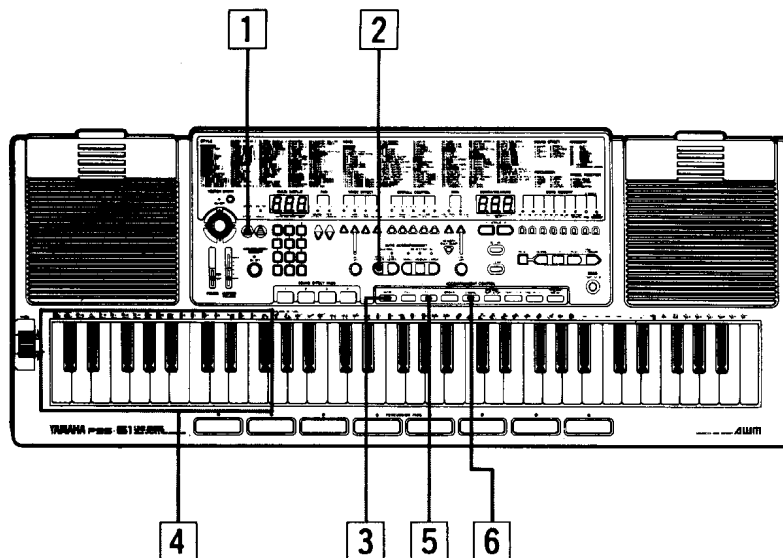
4 もう一度、アカンパニメントコントロールの[START/STOP]ボタンを押す

もう一度[START/STOP]ボタンを押すと、リズムがストップします。

(詳細は24ページ)



オートアカンパニメント（自動伴奏）を使って演奏してみよう



オートアカンパニメント機能を使えば、リズムスタイルに適した伴奏が簡単に演奏できます。次の手順に沿ってオートアカンパニメントを演奏してみましょう。

1 リズムスタイルを選択する

11ページを参考にリズムスタイルを選びます。

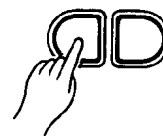
00-79
STYLE



2 [SINGLE FINGER]ボタンを押す

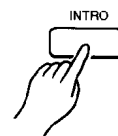
[SINGLE FINGER]ボタンを押して、オートアカンパニメントのフィンガリング（鍵盤の押さえ方）モードを選びます。ここでは、シングルフィンガーを選びます。

FINGERING
SINGLE FINGER FIN-
GERED



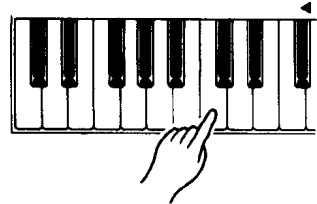
3 [INTRO]ボタンを押す

[INTRO]ボタンを押すと、オートアカンパニメントがイントロパターンの演奏から始まるようにセットされます。



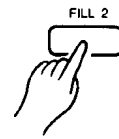
4 アカンパニメント用鍵域の鍵盤を弾く

アカンパニメント用鍵域の鍵盤を押すと、オートアカンパニメントが始まります。いろいろな鍵盤を押してみてください。



5 [FILL 2]ボタンを押す

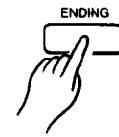
[FILL 2]ボタンを押すと、フィルインパターンの演奏のあと、新しい伴奏パターンになります。



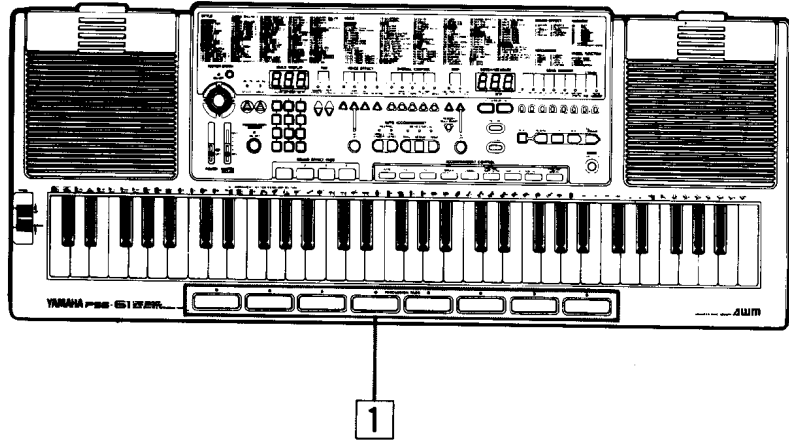
6 [ENDING]ボタンを押す

[ENDING]ボタンを押すと、エンディングパターンの演奏の後、オートアカンパニメントがストップします。

(オートアカンパニメントについての詳細は24ページ参照)



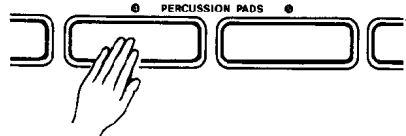
パーカッションパッドをたたいてみよう



PSS-51には10種類のパーカッショングループがあります。それぞれ8つのパーカッションパッドに違った打楽器音が設定されています。

1 パーカッションパッドをたたく

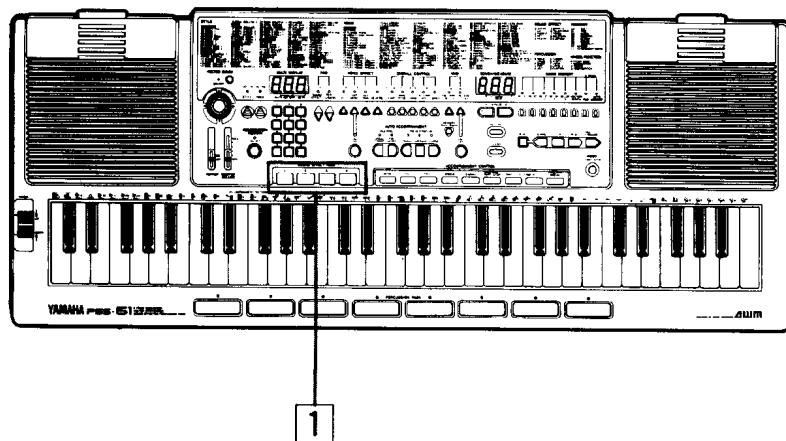
初期設定として“No.0 ROCK”がセットされています。8つのパッドをたたいてみましょう。(詳細は32ページ)



●パーカッション初期設定

番号	グループ名	パッド1	パッド2	パッド3	パッド4	パッド5	パッド6	パッド7	パッド8
0	ロック ROCK	バスドラム (ロー)	スネアドラム (ロー)	タム(ロー)	タム(ハイ)	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	ライド シンバル(2)

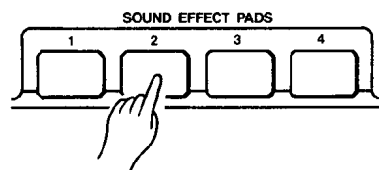
サウンドエフェクトパッドを鳴らしてみよう



PSS-51には10種類のサウンドエフェクトグループがあります。それぞれ4つのサウンドエフェクトパッドに違った効果音が設定されています。

1 サウンドエフェクトパッドを押す

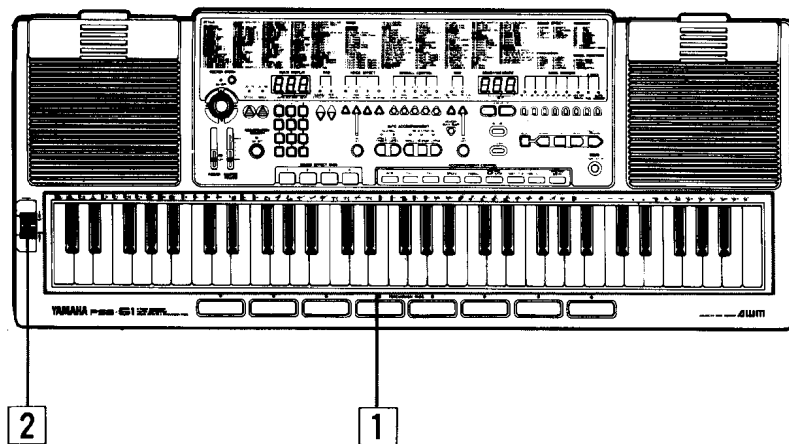
初期設定として“No.0 SAFARI”がセットされています。4つのパッドを押してみましょう。(詳細は34ページ)



●サウンドエフェクト初期設定

番号	グループ名	パッド1	パッド2	パッド3	パッド4
0	サファリ SAFARI	象	ライオン	猿	アフリカン パーカッション

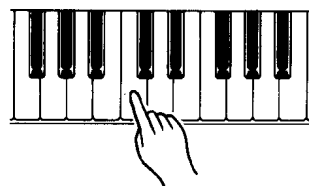
ホイールを使ってみよう



鍵盤を弾きながらホイールを動かすと、音が変わります。

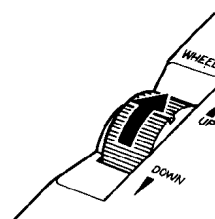
1 鍵盤を押す

ボイスの音を聴きましょう。

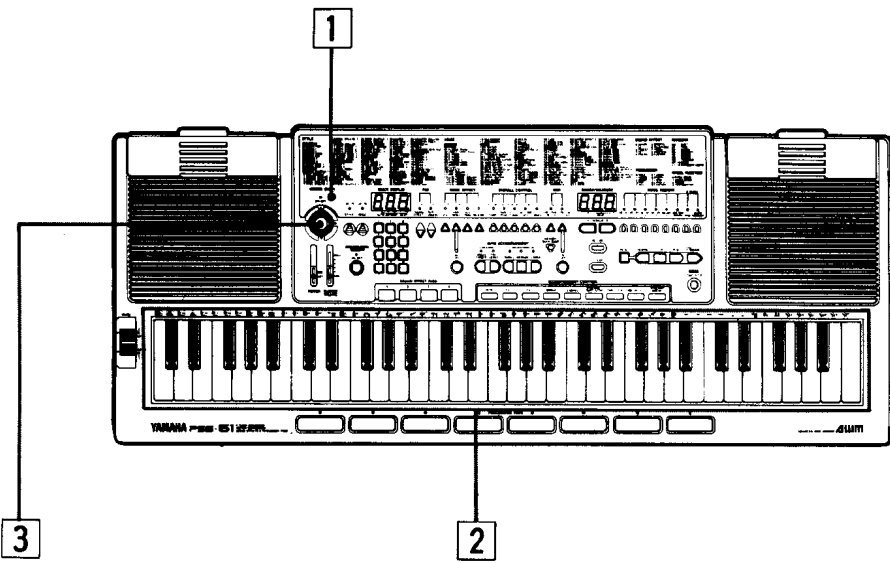


2 鍵盤を押しながら、ホイールを前後に動かす

ホイールを動かすと音が変わります。
ホイールを大きくそして小さく動かしてみましょう、動かす大きさで音の変化のしかたも変わります。(詳細は37ページ)



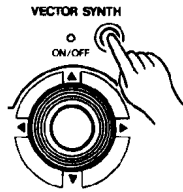
ベクターシンセを試みよう



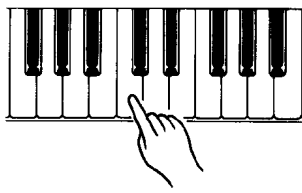
鍵盤を弾きながらジョイスティックを動かすと、ボイス（音色）がミックスされます。

1 [VECTOR SYNTH, ON/OFF]ボタンを押す

ベクターシンセ機能がオンの状態になります。

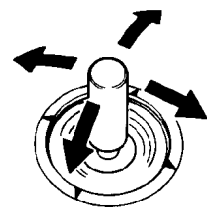


2 鍵盤を押す

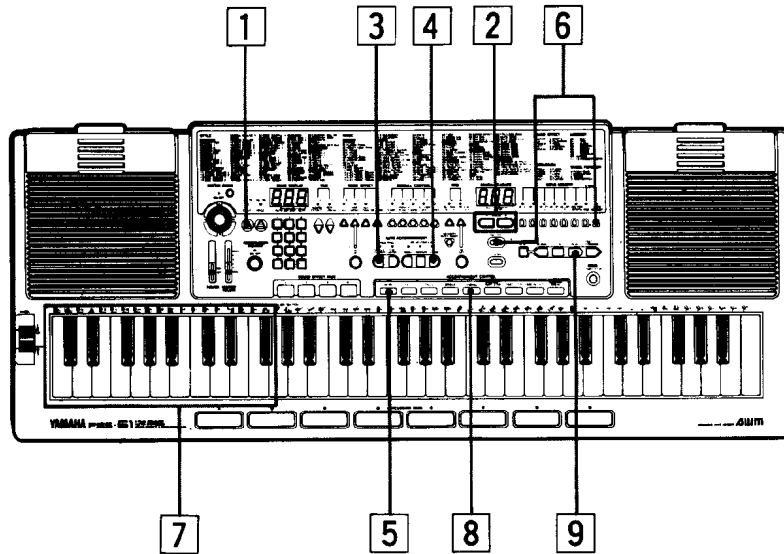


3 ジョイスティックを動かす

上下左右に、そしてグルリと1回転ジョイスティックを動かしてみましょう。音色が変わります。（詳細は36ページ）



録音してみよう



ソングメモリーを使って、次の手順に沿ってオートアカンパニメントを録音してみましょう。

1 リズムスタイルを選ぶ

11ページを参考にリズムスタイルを選びます。

00-79
○
STYLE



2 [SONG#]選択ボタン[+]または[-]を押す

録音するソング番号を選びます。

- SONG# +



3 [SINGLE FINGER]ボタンを押す

ここでは指1本でもオートアカンパニメントの演奏ができる、シングルフィンガーモードを選びます。

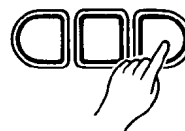
FINGERING
○ ○
SINGLE FIN-
FINGER GERED



4 [LARGE]ボタンを押す

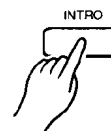
オートアカンパニメントの演奏パート構成を“LARGE”（ラージ）に設定します。

ORCHESTRATION
○ ○ ○
SMALL MEDIUM LARGE



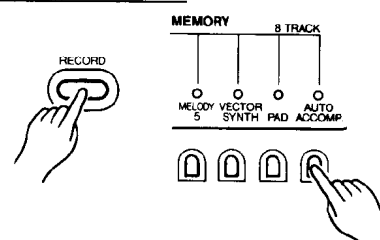
5 [INTRO]ボタンを押す

オートアカンパニメントがイントロパターンから始まるように準備されます。



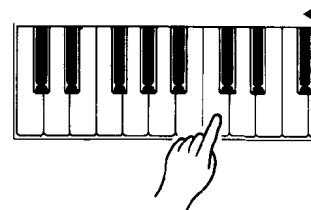
6 [RECORD]ボタンを押しながら、[AUTO ACCOMP.]トラックボタンを押す

オートアカンパニメントトラックが録音待機状態になります。



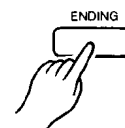
7 アカンパニメント用鍵域の鍵盤を押す

アカンパニメント用鍵域の鍵盤を押すと、オートアカンパニメントがスタートします。いろいろな鍵盤を押してみてください。



8 [ENDING]ボタンを押す

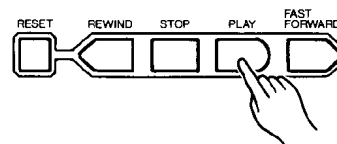
エンディングパターンが演奏された後、オートアカンパニメントがストップします。



9 [PLAY]ボタンを押す

[PLAY]ボタンを押すと再生が始まります。録音したオートアカンパニメントを聴いてみましょう。

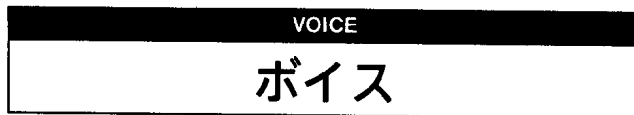
(録音についての詳細は38ページ参照)



機能編

ボイス (音色)

100種類のボイスの中から演奏に使うボイスを選びます。



【設定範囲：00~99】
【初期設定：00】

① ボイスを選択する

パネル上部のボイスリストから演奏に使うボイスを選びます。

【VOICE】ボタンを押すとマルチディスプレイに現在のボイス番号が表示されます。

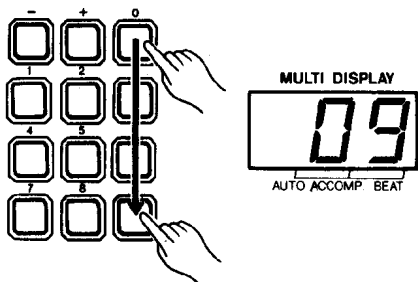


② ボイス番号を入力する

テンキーを使って、ボイス番号の2桁の数字を入力します。

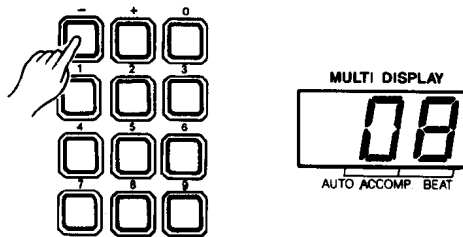
【例1】ボイス番号“09” (CELESTA, チェレスタ) を入力する

- ①：テンキー[0]を押す
- ②：テンキー[9]を押す



【例2】ボイス番号“09” (CELESTA, チェレスタ) から“08” (CLAVI, クラビ) にかえる

- ①：テンキー[-]を押す



[+]、[-]ボタンを押すとマルチディスプレイに表示されている数字が、1だけ増減します。押し続けると連続して増減します。

キーボードパーカッションについて

ボイス番号94~99は、パーカッションサウンドです。いろいろな打楽器音が各鍵盤に設定されていますので、鍵盤を押してパーカッションサウンドを鳴らすことができます。PSS-51の鍵盤上部には、ボイス番号99、98を選んだとき鍵盤に設定される打楽器を示すイラストが付いています。

■各鍵盤のパーカッションサウンド設定

◆94 ピッチ付きスクラッチ

鍵盤	楽器
C1~C6	スクラッチ

◆95 ピッチ付きキック&スネア

鍵盤	楽器
C1~B1	バスドラム(ヘビー)
C2~B2	バスドラム(ライト)
C3~B3	スネアドラム(ロー)
C4~B4	スネアドラム(ハイ)
C5~C6	スネアドラム(シンセ)

◆96 ピッチ付きタム

鍵盤	楽器
C1~B2	タム(アコースティック)
C3~C6	タム(シンセ)

◆97 ピッチ付きラテンパーカッション

鍵盤	楽器
C1~B1	コンガ
C2~B2	ボンゴ
C3~B3	ティンバレ
C4~B4	アゴゴ
C5~C6	クイーカ

◆98 ゲート付きパーカッション

◆99 パーカッション

鍵盤	楽器	鍵盤	楽器
C1	バスドラム(ロー)	C#4	クラベス(ハイ)
C#1	トライアングル(ミュート)	D4	アゴゴ(ロー)
D1	スネアドラム(シンセ)	D#4	アゴゴ(ハイ)
D#1	トライアングル(オープン)	E4	クイーカ(ロー)
E1	タム(シンセバス)	F4	クイーカ(ハイ)
F1	タム(シンセ ロー)	F#4	ホイッスル
F#1	タム(シンセ ミッド)	G4	ブラッシュ(スクイーズ)
G1	タム(シンセ ハイ)	G#4	ハイハット(フット)
G#1	バスドラム(ハイ)	A4	スネアドラム (ロー ゲートリバーブ付)
A1	バスドラム(ミッド)	A#4	声1
A#1	クローズリムショット	B4	声2
B1	タム(ベース)	C5	声3
C2	タム(ロー)	C#5	声4
C#2	スネア(ハイ)	D5	スクラッチ(ロー)
D2	タム(ミッド)	D#5	スクラッチ(ハイ)
D#2	オープンリムショット	E5	ボンゴ(ミュート)
E2	スネアドラム(ロー)	F5	マラカス(ハイ)
F2	タム(ハイ)	F#5	バスドラム(ハウス)
F#2	ハンドクラップ	G5	スネアドラム(ハウス)
G2	カウベル	G#5	タム(ハウス バス)
G#2	カバサ	A5	タム(ハウス ロー)
A2	ハイハット(クローズ)	A#5	タム(ハウス ミッド)
A#2	ブラッシュ(ヒット)	B5	タム(ハウス ハイ)
B2	ハイハット(オープン)	C6	ハイハット(ハウス)
C3	クラッシュシンバル		
C#3	スブラッシュシンバル		
D3	ライドシンバル(1)		
D#3	ライドシンバル(2)		
E3	コンガ(ロー)		
F3	コンガ(ハイ)		
F#3	コンガ(ミュート)		
G3	ボンゴ(ロー)		
G#3	ボンゴ(ハイ)		
A3	ティンバレ(ロー)		
A#3	ティンバレ(ハイ)		
B3	タンバリン		
C4	クラベス(ロー)		

* “98 ゲート付きパーカッション”は“99 パーカッション”と同様にC1~C6の鍵盤にそれぞれ上図の様にパーカッションサウンドが設定されていますが、このサウンドは鍵盤を離すと音がカットされます。

ボイスエフェクト

PSS-51の音色はAWM音源システムですから、それだけでリアルな演奏を楽しめます。また自分なりに4つのボイスエフェクトを使い、音にいろいろな効果を加えてオリジナルの音色を作ることができます。

(レジストレーションメモリーは、リズムスタイルごとにボイスとボイスエフェクトの設定を持っています。自分でボイスエフェクトを設定するときの参考にしてください)

VOLUME

ボリューム

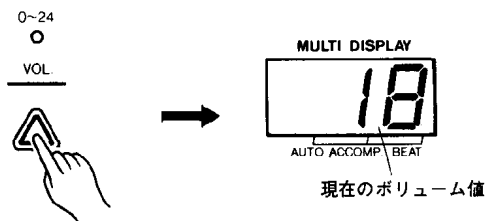
[設定範囲：0～24]

[初期設定：21]

マスターボリュームを最大にしたときのボイスの音量を設定します。

① ボリュームを選択する

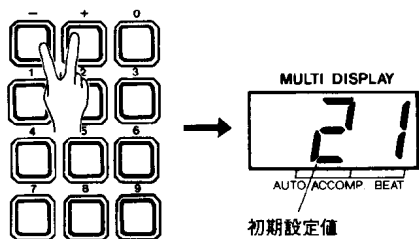
[VOL.]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のボリュームの設定値が表示されます。



② ボリューム値を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、0～24の間でボリューム値を入力します。

初期設定値の“21”に戻すときは、[+]、[-]ボタンを同時に押します。



・この機能ではパーカッションパッドやサウンドエフェクトパッド、オートアカンパニメント（自動伴奏）の音量をかえることはできません。

HARMONY

ハーモニー

[設定範囲：00～14]

[初期設定：00]

PSS-51には15のハーモニータイプがあります。演奏に合わせてタイプを選んでください。鍵盤演奏に、自動的にハーモニー効果がかかります。

① ハーモニーを選択する

パネル上部のハーモニーリストからハーモニータイプを選びます。

[HARMONY]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のハーモニータイプ番号が表示されます。



ハーモニータイプ

- | | |
|-------|----------------------------|
| 00 | DUET (デュエット) |
| 01 | TRIO (トリオ) |
| 02 | BLOCK (ブロック) |
| 03 | COUNTRY (カントリー) |
| 04 | OCTAVE (オクターブ) |
| 05 | STRUM (ストラム) |
| 06 | TREMOLO (トレモロ) |
| 07~10 | ECHO (エコー) |
| 11~14 | HARMONY + ECHO (ハーモニー+エコー) |

② ハーモニータイプ番号を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、タイプ番号を入力します。

③ ハーモニー効果をかける

[HARMONY, ON/OFF]ボタンを押すと、ボイスにハーモニー効果がかかります。

フィンガードとシングルフィンガーのどちらかのフィンガリングがオンの場合、アカンパニメント鍵域で検出されたコードに基づいて、演奏した音にハーモニー効果がかかります。



- ・ハーモニータイプ00～05、11～14の場合、鍵盤演奏は単音になります。
- ・この機能では、パーカッションパッドやサウンドエフェクトパッド、オートアカンパニメントの音にハーモニー効果を加えることはできません。
- ・ベクターシンセを使っているときは、ハーモニー効果はかかりません。
- ・ハーモニータイプ00～05、11～14では[HARMONY, ON/OFF]ボタンを押した後、次の押鍵音からハーモニー効果がかかります。

SUSTAIN

サステイン

[設定範囲：0～1]

[初期設定：0]

サステインとは『音に余韻をつける』効果のことで、PSS-51ではサステイン効果をオン（設定“1”）にすると、鍵盤を離しても音が急に止まらずに徐々に音が小さくなっていきます。

① サステインを選択する

[SUSTAIN]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のサステインの設定が表示されます。

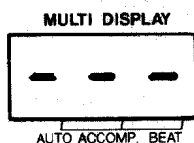


“0” ……サステイン効果オフ
“1” ……サステイン効果オン

② サステインを設定する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、設定を入力します。

- ・ボイスの中にはサステイン効果がかからないものもあります。サステイン効果のかからないボイスを選択すると、マルチディスプレイに“---”が表示されます。



REVERB

リバーブ

[設定範囲：0～3]

[初期設定：0]

リバーブとは音に残響を与える効果で、音に厚みと奥行きを加えます。ここでは残響の深さを設定します。

① リバーブを選択する

[REVERB]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のリバーブの設定が表示されます。



“0” ……リバーブ効果オフ
“1” ……リバーブ効果オン、効果“浅い”
“2” ……リバーブ効果オン、効果“中程度”
“3” ……リバーブ効果オン、効果“深い”

② リバーブを設定する

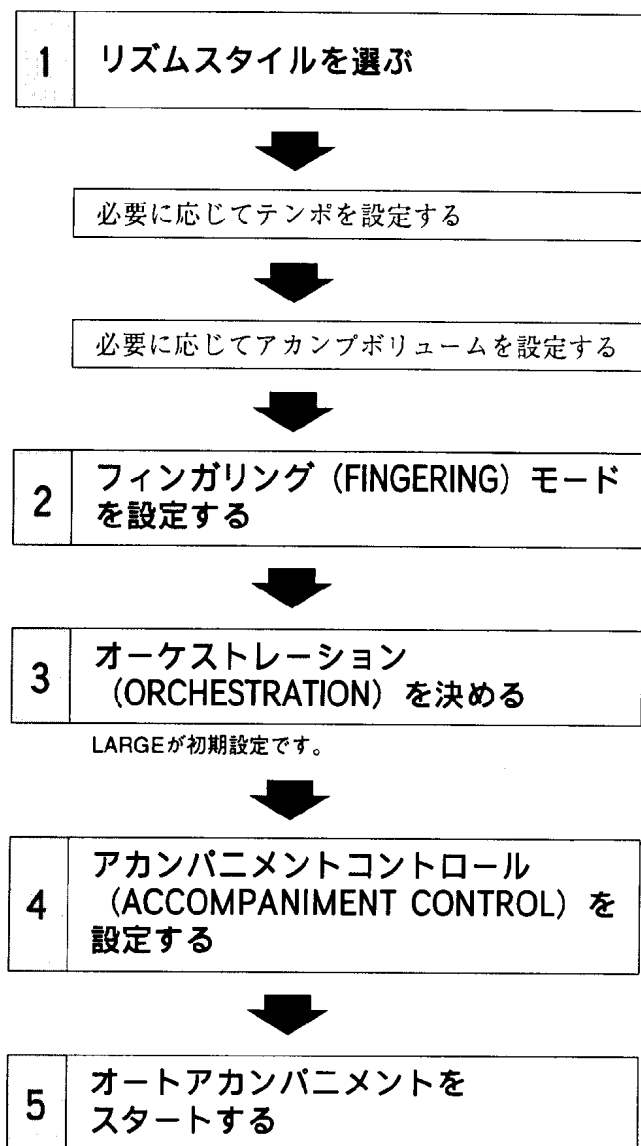
テンキーの[+]、[-]ボタンを使って設定を入力します。

- ・ボイスの中にはリバーブ効果がかからないものもあります。リバーブ効果のかからないボイスを選択すると、マルチディスプレイに“---”が表示されます。

オートアカンパニメント (自動伴奏)

PSS-51は、幅広いジャンルの音楽スタイルに対応できるオートアカンパニメント機能を持っています。アカンパニメント用鍵域の鍵盤を押すと、検出されたコードと、80種類の中から選ばれたリズムスタイルに合わせて、伴奏を自動的に演奏します。

《オートアカンパニメント演奏のための手順》



STYLE スタイル

[設定範囲：00~79]

[初期設定：00]

① リズムスタイルを選択する

パネル上部のスタイルリストから、演奏に使うスタイルを選びます。

[STYLE]ボタンを押すとマルチディスプレイに現在のスタイル番号が表示されます。

00~79



STYLE



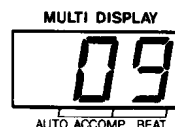
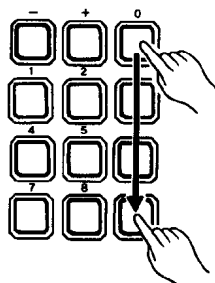
② スタイル番号を入力する

テンキーを使って、スタイル番号の2桁の数字を入力します。

【例1】スタイル番号“09” (ROCK SHUFFLE 1, ロックシャッフル1) を入力する

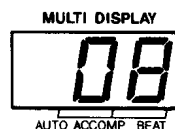
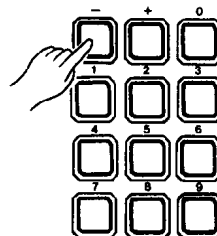
①：テンキー[0]を押す

②：テンキー[9]を押す



【例2】スタイル番号“09” (ROCK SHUFFLE 1, ロックシャッフル1) から“08” (EURO BEAT 2, ユーロビート2) にかえる

①：テンキー[-]を押す



[+], [-]ボタンを押すとマルチディスプレイに表示されている数字が、1だけ増減します。押し続けると連続して増減します。

・リズムをスタートした後もリズムスタイルの変更ができます。別のスタイルを選択すると、次の小節からパターンが切り替わります。

TEMPO

テンポ

【設定範囲：40～240】

オートアカンパニメント、ソングメモリーで録音した曲の再生、デモソング演奏のテンポをコントロールします。テンポの設定値は、1分間当りの4分音符の数を表しています。

① テンポを選択する

[TEMPO]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のテンポの設定値が表示されます。



② テンポ値を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使ってテンポを入力します。

[+]、[-]ボタンを押すとマルチディスプレイに表示されている数字が、1だけ増減します。押し続けると連続して増減します。

テンポの初期値は各リズムスタイルによって異なります。テンポを変更した後そのスタイルの初期値のテンポに戻すときは、[+]、[-]ボタンを同時に押します。

- ・リズムがストップしているときに、スタイルをかえると自動的にそのスタイルの初期テンポがセットされます。
- ・リズムが鳴っているときに、スタイルをかえてもテンポは変わりません。

ACCOMP. VOL.

アカンパボリューム

【設定範囲：0～24】

【初期設定：21】

オートアカンパニメント使用時のアカンパニメント（アカンパ）のボリュームの設定をします。アカンパニメントとその他の音量のバランスを調整することができます。

① アカンパボリュームを選択する

[ACCOMP. VOL.]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のアカンパボリュームの設定値が表示されます。



② アカンパボリューム値を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、0～24の間でアカンパボリューム値を入力します。

[+]、[-]ボタンを押すとマルチディスプレイに表示されている数字が、1だけ増減します。押し続けると連続して増減します。

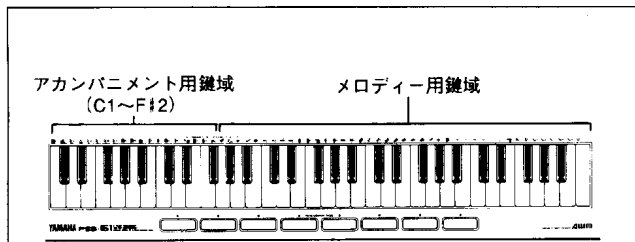
初期設定値の“21”に戻すときは、[+]、[-]ボタンを同時に押します。

- ・アカンパニメントボリュームの設定は、オートアカンパニメント使用時のみ有効です。

FINGERING

フィンガリング

フィンガリングとは、オートアカンパニメント用コード演奏のための指の動かし方のことです。PSS-51では、指1本～3本でコードを演奏する“シングルフィンガー”モードと普通にコードを押さえる“フィンガード”モードの2種類があります。



○アカンパニメント用鍵域

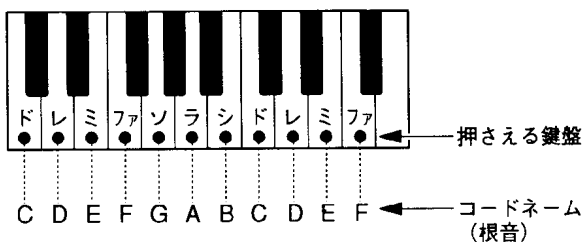
鍵盤左側、オートアカンパニメントのためのコード演奏をする鍵盤です。

- ・リズムがストップしてシンクロ待機状態でないとき、[SINGLE FINGER]または[FINGERED]ボタンがオンの状態を『ストップアカンパニメント』といいます。この状態でそれぞれのフィンガリングモードに従ってコードを押さえると、そのコードの根音がチャンネル15のボイスで、コード音がチャンネル14のボイスで、発音します。チャンネル14、15のボイスは、スタイルの変更により自動的に設定されます。キーボード送信チャンネル14、15のボイスの設定を変えることで、ストップアカンパニメントの演奏音を変えることができます。
- ・オートアカンパニメントは、鍵盤から指を離しても自動伴奏が続きます。コードをかえるときだけ鍵盤を押しかえてください。

○メロディー用鍵域

鍵盤右側、オートアカンパニメントに関係なく、選択した音色で演奏できる鍵盤です。（レジストレーションメモリーを使うことができる）

○アカンパニメント用鍵域とコードネーム

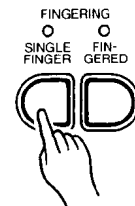


シングルフィンガーモード

このモードは、コード演奏に慣れていない人にも、比較的簡単にコード演奏ができる方法です。演奏したいコードの根音を押さえればメジャーコードが、その他にも根音に1音または2音追加して、マイナーコード、セブンスコード、マイナーセブンスコードを演奏することができます。

① フィンガリングモードを選択する

[SINGLE FINGER]ボタンを押します。
[SYNCHRO START/STOP]ボタンのランプが点滅して、自動的にシンクロスタートがON（シンクロ待機状態）になります。



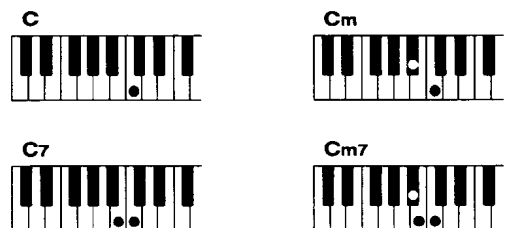
② オートアカンパニメントをスタートする

アカンパニメント用鍵域の鍵盤を押すと、オートアカンパニメントがスタートします。

○シングルフィンガーコードの押さえ方

コード名	押さえ方
メジャー (M)	根音を押す
マイナー (m)	根音と根音より左側の黒鍵を同時に押す
セブンス (7)	根音と根音より左側の白鍵を同時に押す
マイナーセブンス (m7)	根音と根音より左側の黒鍵と白鍵を同時に押す

○Cのシングルフィンガーコード



フィンガードモード

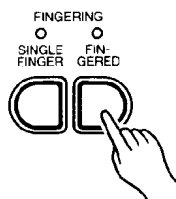
コード演奏に慣れている人やコード演奏にトライしようとしている人は、フィンガードモードでオートアカンパニメントを演奏してみましょう。

右に示すようにシングルフィンガーモードより多い14種類のコードを演奏することができます。より幅のある演奏をお楽しみください。

① フィンガリングモードを選択する

[FINGERED]ボタンを押します。

[SYNCHRO START/STOP]ボタンのランプが点滅して、自動的にシンクロスタートがON（シンクロ待機状態）になります。



② オートアカンパニメントをスタートする

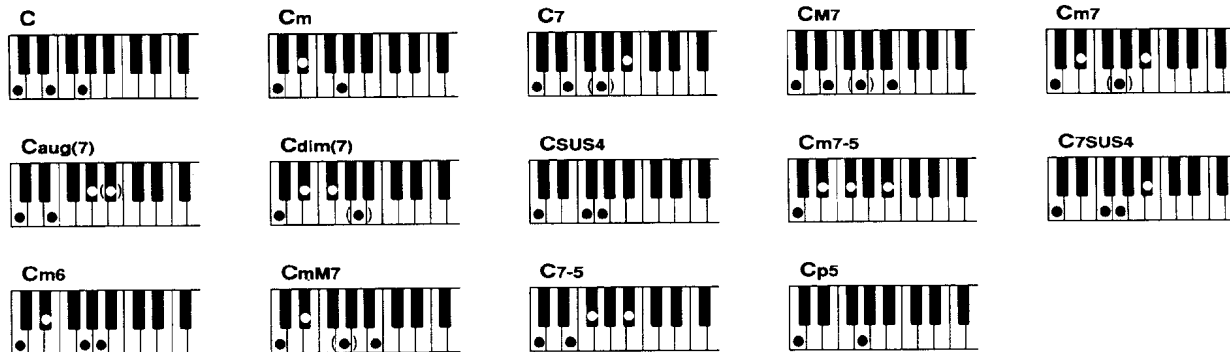
アカンパニメント用鍵盤の鍵盤を次の表のコードタイプに合った押さえ方で弾くと、オートアカンパニメントが始まります。

○フィンガードコード構成表

コードタイプ		コード構成
M	メジャー	1-3-5
m	マイナー	1-♭3-5
7	セブンス	1-3-(5)-♭7
M7	メジャーセブンス	1-3-(5)-7
m7	マイナーセブンス	1-♭3-(5)-♭7
aug (7)	オーギュメント (セブンス)	1-3-♯5-(♭7)
dim (7)	ディミニッシュ (セブンス)	1-♭3-♭5-(6)
SUS4	サスフォー	1-4-5
m7-5	マイナーセブンス フラットファイブ	1-♭3-♭5-♭7
7SUS4	セブンスサスフォー	1-4-5-♭7
m6	マイナーシックス	1-♭3-5-6
mM7	マイナーメジャーセブンス	1-♭3-(5)-7
7-5	セブンスフラット ファイブ	1-3-♭5-♭7
P5	パーフェクトファイブ	1-5

- ・ aug、dimは押鍵の最低音を根音とみなします。
- ・ 7-5は押鍵の最低音を根音または♭7とみなします。
- ・ m6は基本形のみを受け付けます。
- ・ オクターブの押鍵（完全8度）では根音のみのオートアカンパニメントとなります。
- ・ P5（完全5度）では根音と5度の音によるオートアカンパニメントとなります。メジャー、マイナーの多くのコードに利用できます。
- ・ 黒鍵を含む隣り合う3音を同時に押鍵すると、オートアカンパニメントのコード演奏が止まり、リズムパートのみの演奏になります。
- ・ かつこ内は省略可。

○Cのフィンガードコード



ORCHESTRATION

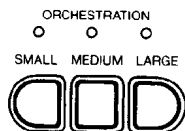
オーケストレーション

【初期設定：LARGE（ラージ）】

オートアカンパニメントは、リズムパート、ベースパート、コードパートそしてその他のパートに分れています。オーケストレーションでは、この演奏パート構成を設定します。下の表のように“SMALL（スモール）”“MEDIUM（ミディアム）”“LARGE（ラージ）”の順に構成が大きくなります。

① 演奏パート構成を設定する

[SMALL]、[MEDIUM]、[LARGE]のいずれかのボタンを押して、演奏パート構成を設定します。



構成 \ パート	リズム	ベース	コード	その他
SMALL	○	○		
MEDIUM	○	○	○	
LARGE	○	○	○	○

・各パートの演奏データはMIDIチャンネルより出力されます。詳しくは49ページを参照してください。

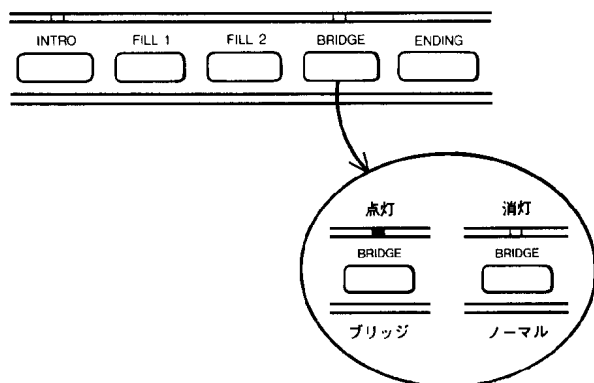
ACCOMPANIMENT CONTROL

アカンパニメントコントロール

伴奏パターンや伴奏方法（始め方や終わり方）をコントロールします。各ボタンを押すと、それぞれのリズムスタイルに合ったパターンが演奏されます。

アカンパニメントパターン

アカンパニメントコントロールの各ボタンで伴奏パターンを選びます。各パターンは以下のような特徴があります。



◆イントロ (INTRO)

イントロ用の伴奏パターンです。伴奏を始める前にこのボタンを押して準備しておくといよいでしょう。[START/STOP]ボタンを押すか、[SYNCHRO START/STOP]ボタンを押してから鍵盤を押すとイントロパターンがスタートします。パターンが始まるとマルチディスプレイの左端のビート用ドットがリズムスタイルのテンポに合わせて点滅し、イントロ演奏中であることを示します。

イントロパターンの終了後、次に指定されたパターンに演奏が移ります。

- ・イントロパターンは曲の途中に入れることもできます。ボタンを押すと次の小節からイントロパターンが演奏されます。

◆ノーマル (NORMAL)

[BRIDGE]ボタンの上のランプが消灯しているときの伴奏パターンがノーマルパターンです。ブリッジパターンと共に演奏のメインパターンです。次のパターンのボタンが押されるまで、同じパターンを繰り返し演奏します。

◆ブリッジ (BRIDGE)

[BRIDGE]ボタンを押すと、[BRIDGE]ボタンの上のランプが点灯し、伴奏がもう少し複雑な盛り上がりのあるパターンに入ります。ノーマルパターンと同様に次のパターンのボタンが押されるまで、同じパターンを繰り返し演奏します。

◆フィル 1 (FILL 1)

[FILL 1]ボタンを押すと、押した小節の終わりまで、フィルインパターン（一般的にオカズと言われる変則的なパターン）が演奏されます。このパターンの終了後、次のパターンの指定がない場合は、自動的に次の小節の頭からノーマルパターンに移ります。[FILL 1]ボタンを押し続けると、その間このパターンが繰り返し演奏されます。

◆フィル 2 (FILL 2)

[FILL 2]ボタンを押すと、押した小節の終わりまでフィルインパターンが演奏されます。このパターンの終了後、次のパターンの指定がない場合は、自動的に次の小節の頭からブリッジパターンに移ります。[FILL 2]ボタンを押し続けると、その間このパターンが繰り返し演奏されます。

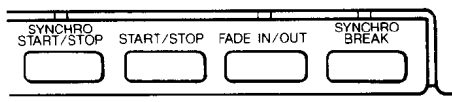
◆エンディング (ENDING)

エンディング用のパターンです。このボタンを押すと、次の小節の頭からエンディングパターンを演奏した後、伴奏がストップします。エンディングパターンが始まると、マルチディスプレイの左端のビート用ドットが点滅し、エンディング演奏中であることを示します。

- ・各パターンは、他のパターン演奏中にボタンを押すことで、次の演奏の指定をすることができます。

アカンパニメントコントロール

アカンパニメントの始め方、終わり方などをコントロールします。
各ボタンは次のような機能を持っています。



◆スタート/ストップ (START/STOP)

アカンパニメントをスタートまたはストップさせる機能です。[START/STOP]ボタンを押すと、アカンパニメントがスタートします。演奏中に[START/STOP]ボタンを押すと、アカンパニメントがストップします。

◆シンクロ スタート/ストップ (SYNCHRO START/STOP)

アカンパニメント用鍵域の押鍵と同時に、アカンパニメントをスタートさせる機能です。フィンガリングボタン（[SINGLE FINGER]または、[FINGERED]ボタン）を押すと、自動的にこの機能がセットされます。このとき、[SYNCHRO START/STOP]ボタンの上のランプとマルチディスプレイの3つのドットがテンポに合わせて点滅し、シンクロスタートが待機中であることを示します。ランプ点滅中に、もう一度[SYNCHRO START/STOP]ボタンを押すと、ランプが消えシンクロスタート機能が解除されます。

演奏中に[SYNCHRO START/STOP]ボタンを使ってアカンパニメントをストップさせると、ランプが点滅してシンクロスタートが待機中になります。

◆フェード イン/アウト (FADE IN/OUT)

アカンパニメントの始まりと終わりの音量をコントロールします。[FADE IN/OUT]ボタンを押してから（ボタン上のランプが点灯）演奏を始めると、アカンパニメントの音量が徐々に大きくなり、設定されているボリューム値に達するとランプが消えます。演奏中

に[FADE IN/OUT]ボタンを押すと（ボタン上のランプが点灯）、アカンパニメントの音量が徐々に小さくなりストップします（ランプ消灯）。

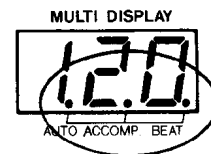
◆シンクロ ブレーク (SYNCHRO BREAK)

アカンパニメントのリズム演奏を、アカンパニメント演奏中に一時的に止めることができる機能です。[SYNCHRO BREAK]ボタンを押すとボタン上のランプが点灯して、シンクロブレーク機能が動作可能であることを示します。この機能がオンのとき、アカンパニメント演奏中にパーカッションパッドまたはサウンドエフェクトパッドを叩くと、次の小節の頭までリズム演奏がストップします。この間、自分のオリジナルのパッド演奏ができます。

○ビート（拍数）表示について

オートアカンパニメントの待機中または演奏中に、各リズムスタイルに決められたビートでマルチディスプレイの3つのビート用ドットが点滅します。点滅の仕方はビートにより異なりますので、下に代表的な4/4ビート、3/4ビートの例を示します。

・ビートを打つ速さは、リズムのテンポに従って打たれます。



4/4ビート

3/4ビート

1拍目	●	●	●	1拍目	●	●	●
2拍目	●	○	○	2拍目	●	○	○
3拍目	○	●	○	3拍目	○	●	○
4拍目	○	○	●				

REGISTRATION MEMORY

レジストレーションメモリー

PSS-51は、80種類の各々のリズムスタイルのノーマル、ブリッジパターンに合わせた、レジストレーション（ボイスとボイスエフェクトの設定）を持っています。この設定をワンタッチでセットするのがレジストレーションメモリー機能です。

そして、セットされたレジストレーション（ボイスやボイスエフェクトの設定）は自由に変更することができます。変更した設定はレジストレーションメモリーとしてPSS-51に記憶されます。

① スタイル番号を選択する

（詳細は24ページ）

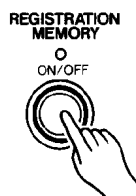
② ノーマル/ブリッジパターンを選択する

[BRIDGE]ボタンを押して、ノーマルパターンかブリッジパターンを選びます。

③ レジストレーションメモリー機能をオン

[REGISTRATION MEMORY ON/OFF]ボタンを押すと、レジストレーションが自動的にセットされます。

もう一度、[REGISTRATION MEMORY ON/OFF]ボタンを押すとレジストレーションメモリー機能が解除されます。



④ メロディー用鍵域を弾く

演奏の途中でパターンを切り替えると（ノーマル→ブリッジまたは、ブリッジ→ノーマル）、それと同時にレジストレーションも自動的に切り替わります。

⑤ レジストレーションをメモリーする
（記憶させる）

レジストレーションは自由に変更ができます。（ボイスとボイスエフェクトの設定方法は、それぞれ20ページ、22ページをご参照ください。）

変更した設定は、そのままPSS-51に記憶されます。記憶された設定は、次回レジストレーションメモリー機能をオンしたときに呼び出されます。

レジストレーションを初期値に戻したい場合、ボイスとボイスエフェクトのそれぞれのボタンを押した後、テンキーの[+]、[-]ボタンを同時に押します。

- ・すべての設定を一度に元に戻す方法は、57ページをご覧ください。
- ・変更したレジストレーションメモリーの設定は、乾電池が弱くなったり、電源アダプターがはずれるなどして電力が供給されなくなると初期設定に戻ります。

演奏バリエーション

PSS-51には鍵盤演奏を助けて演奏を盛り上げるパーカッションパッド、サウンドエフェクトパッド、ベクターシンセ、ホイールがあります。これらの機能を自由に使って個性ある演奏をお楽しみください。

PERCUSSION PADS

パーカッションパッド

【設定範囲：0～9】

【初期設定：0】

PSS-51には右ページの表のように10のパーカッショングループがあります。ボイスやリズムスタイルに合わせてグループを選び、それぞれ8つのパッドをたたいて、演奏に打楽器音を加えることができます。

No.9のパーカッショングループには、自分でパーカッションサウンドを設定することができます。（カスタムパーカッション）

① パーカッショングループを選択する

パネル上部のパーカッションリストからパーカッショングループを選びます。

[PERCUSSION]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のパーカッショングループ番号が表示されます。



② パーカッショングループ番号を入力する

テンキーを使ってパーカッショングループ番号を入力します。

③ パーカッションパッドをたたく

8つのパッドには、それぞれ異なるパーカッションサウンドが設定されています。8つのパッドをたたいてみましょう。

カスタムパーカッション

“No.9 CUSTOM”には、初期設定として表のようにパーカッションサウンドが設定されていますが、8つのパッドに自分で、好みのパーカッションサウンドを設定することもできます。

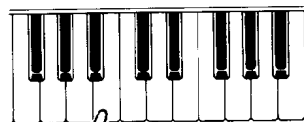
① パーカッショングループ番号9 “CUSTOM”を選ぶ

② ボイス番号99を選ぶ

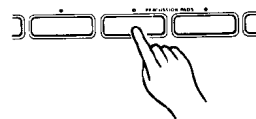
ボイス番号99は、各鍵盤に打楽器音が設定されているボイスです。（“キーボードパーカッション”20ページ参照）

③ パーカッションサウンドをパッドに設定する

設定したいパーカッションサウンドの鍵盤を押しながら、パッドをたたきます。同様に他のパッドにも設定します。



鍵盤を押しながら



- ・ベクターシンセを使っているときは、パーカッションサウンドを設定することはできません。
- ・カスタムパーカッションの設定は乾電池が弱くなったり、電源アダプターがはずれるなどして電力が供給されなくなると初期設定に戻ります。
- ・パーカッションパッドには、パーカッションサウンドの他にサウンドエフェクトも設定することができます。

◆パーカッショングループ表

番号	グループ名	パッド1	パッド2	パッド3	パッド4	パッド5	パッド6	パッド7	パッド8
0	ロック ROCK	バスドラム (ロー)	スネアドラム (ロー)	タム (ロー)	タム (ハイ)	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	ライド シンバル(2)
1	ハウス HOUSE	バスドラム (ハウス)	スネアドラム (ハウス)	タム (ハウス バス)	タム (ハウス ミッド)	ハイハット (ハウス)	マラカス (ハイ)	タンバリン	トライアングル (オープン)
2	ダンス DANCE	バスドラム (ミッド)	オープンリム ショット	タム (ロー)	ハンドクラップ	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	ライド シンバル(1)
3	ポップ POP	バスドラム (ミッド)	スネアドラム (ロー ゲートリ バーブ付)	タム (ロー)	タンバリン	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	ライド シンバル(1)
4	ジャズ JAZZ	バスドラム (ハイ)	スネア (ハイ)	ブラッシュ (スクイーズ)	ブラッシュ (ヒット)	ハイハット (フット)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	ライド シンバル(2)
5	フュージョン FUSION	バスドラム (ミッド)	スネア (ロー)	タム (ロー)	カウベル	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	スブラッシュ シンバル	ライド シンバル(1)
6	シンセ SYNTH	バスドラム (ロー)	スネアドラム (シンセ)	タム (シンセ ロー)	タム (シンセ ミッド)	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	スブラッシュ シンバル
7	ラテン1 LATIN1	ボンゴ (ロー)	ボンゴ (ハイ)	ボンゴ (ミュート)	クラベス (ロー)	クラベス (ハイ)	コンガ (ロー)	コンガ (ハイ)	コンガ (ミュート)
8	ラテン2 LATIN2	クイーカ (ロー)	クイーカ (ハイ)	ティンバレ (ロー)	ティンバレ (ハイ)	アゴゴ (ロー)	アゴゴ (ハイ)	カバサ	ホイッスル
9	カスタム CUSTOM	バスドラム (ロー)	スネア (ロー)	タム (ロー)	タム (ハイ)	ハイハット (クローズ)	ハイハット (オープン)	クラッシュ シンバル	ライド シンバル(2)

SOUND EFFECT PADS

サウンドエフェクトパッド

【設定範囲：0~9】

【初期設定：0】

PSS-51には、10のサウンドエフェクトグループがあります。演奏にユニークな効果音を加えることができます。

No.9のサウンドエフェクトグループには、自分でサウンドエフェクトを設定することができます。（カスタムサウンドエフェクト）

① サウンドエフェクトグループを選択する

パネル上部のサウンドエフェクトリストからサウンドエフェクトグループを選びます。

[SOUND EFFECT]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のサウンドエフェクトグループ番号が表示されます。



② サウンドエフェクトグループ番号を入力する

テンキーを使ってサウンドエフェクトグループ番号を入力します。

③ サウンドエフェクトパッドを押す

4つのパッドにはそれぞれ異なるサウンドエフェクトが設定されています。4つのパッドを押してみてください。

◆サウンドエフェクト一覧表

番号	グループ名	パッド1	パッド2	パッド3	パッド4
0	<small>サファリ</small> SAFARI	象	ライオン	猿	アフリカン パーカッション
1	<small>車</small> CAR	ブレーキ	クラクション	イグニッション (エンジンスタート)	アクセル (走り去る車)
2	<small>森</small> FOREST	小鳥のさえずり	ウグイス	カッコウ	小川のせせらぎ
3	<small>ペット</small> PET	ねこ	犬1	犬2	おんどり
4	<small>海</small> OCEAN	タグボート	霧笛	海ねこ	波音
5	<small>スポーツ</small> SPORTS	テニス	バスケット	ベースボール	ゴルフ
6	<small>電話</small> TELEPHONE	ブッシュホン	通話中	呼び出し	ハロー
7	<small>鉄道</small> TRAIN	踏切	汽笛	蒸気機関車	電車
8	<small>ウェスタン</small> WESTERN	カウボーイ	ギャロップ	いななき	牛の鳴き声
9	<small>カスタム</small> CUSTOM	雨音	雷鳴	風音	蛙の鳴き声

カスタムサウンドエフェクト

“No.9 CUSTOM”には、初期設定として表のようにサウンドエフェクトが設定されていますが、4つのパッドに、自分で好みのサウンドエフェクトを設定することもできます。

① サウンドエフェクトグループ番号9 “CUSTOM” を選ぶ

② ボイス番号99を選ぶ

鍵盤にボイス番号99のパーカッションサウンドが設定されます。(キーボードパーカッション)
音色番号99には、パーカッションサウンドの他にサウンドエフェクトが入っています。(右図参照)

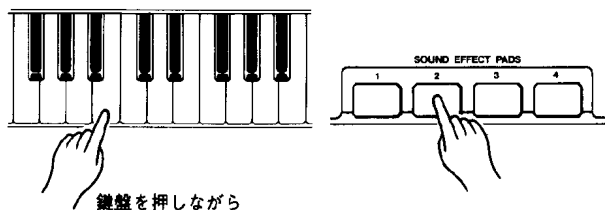
③ サウンドエフェクトを鍵盤上にトランスポーズ(移調)する

[TRANSCOPE]ボタンを押します。
テンキーの[+]、[-]ボタンを使ってトランスポーズ値を“24”または“-24”に移調設定します。(“トランスポーズ”の方法については46ページを参照してください。)

④ サウンドエフェクトをパッドに設定する

設定したいサウンドエフェクトの鍵盤を押しながら、パッドを押します。同様にして他のパッドにも設定します。

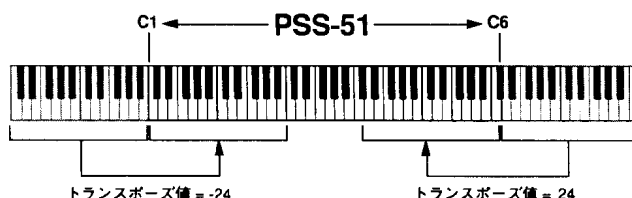
- ・カスタムサウンドエフェクトが終了したら、トランスポーズ値を元に戻してください。



鍵盤を押しながら

- ・ベクターシンセを使っているときは、サウンドエフェクトを設定することはできません。
- ・カスタムサウンドエフェクトの設定は、乾電池が弱くなったり、電源アダプターがはずれるなどして電力が供給されなくなると初期設定に戻ります。
- ・サウンドエフェクトパッドには、サウンドエフェクトの他にパーカッションサウンドも設定することができます。

■サウンドエフェクトのトランスポーズ



■サウンドエフェクトの鍵盤への設定

◆99 パーカッション

鍵盤	楽器	鍵盤	楽器
C-1	象	C6	ハイハット(ハウス)
C#-1	ライオン	C#6	ブッシュホン
D-1	猿	D6	通話中
D#-1	アフリカンパーカッション	D#6	呼び出し
E-1	ブレーキ	E6	ハロー
F-1	クラクション	F6	踏切
F#-1	イグニッション(エンジンスタート)	F#6	汽笛
G-1	アクセル(走り去る車)	G6	蒸気機関車
G#-1	小鳥のさえずり	G#6	電車
A-1	ウグイス	A6	カウボーイ
A#-1	カッコウ	A#6	ギャロップ
B-1	小川のせせらぎ	B6	いななき
C0	ねこ	C7	牛の鳴き声
C#0	犬1	C#7	雨音
D0	犬2	D7	雷鳴
D#0	おんどり	D#7	風音
E0	タグボート	E7	蛙の鳴き声
F0	霧笛	F7	
F#0	海ねこ	F#7	
G0	波音	G7	
G#0	テニス	G#7	
A0	バスケット	A7	
A#0	ベースボール	A#7	
B0	ゴルフ	B7	
C1	バスドラム(ロー)	C8	

VECTOR SYNTH

ベクターシンセ

ベクターシンセを使えば、ジョイスティックを動かすことで4つのボイスをミックスすることができます。ジョイスティックの方向によって4つのボイスのバランスを微妙にコントロールし、オリジナルのボイスを作ってください。

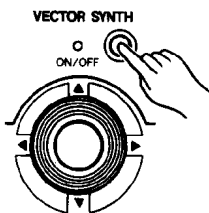
4ボイスは、ジョイスティックの上下左右の4方向に設定されています。好きなボイスを設定してみましょう。

① ボイス（音色）を選ぶ

パネル上部のボイスリストから、ベクターシンセに使う4ボイスを選びます。

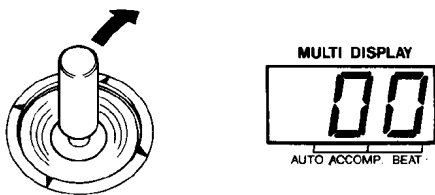
② ベクターシンセ機能をオン

[VECTOR SYNTH ON/OFF]ボタンを押します。



③ ボイスを設定する位置を決める

ジョイスティックを上下左右のいずれかに倒します。マルチディスプレイに、倒した方向に設定されているボイス番号が表示されます。



④ 設定するボイス番号を入力する

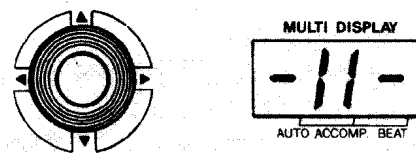
テンキーを使ってボイス番号を入力すると、マルチディスプレイに入力したボイス番号が表示されます。入力したボイスは、ボイスエフェクトの設定もできます。

⑤ ③④の手順を繰り返し、上下左右4方向にボイスを設定します。

⑥ ジョイスティックを動かす

ジョイスティックをいろいろな方向に動かして、ボイスの変化を聴いてみましょう。

- ・ジョイスティックがセンターにあるときは、4音色が同じ割合でミックスされます。そのときマルチディスプレイには“-||-”が表示されます。



- ・ベクターシンセの設定は、乾電池が弱くなったり、電源アダプターがはずれるなどして電力が供給されなくなると初期設定に戻ります。
- ・ベクターシンセがオンのときは、ハーモニー効果は使えません。
- ・ホイール機能は、ベクターシンセの4音色全体に掛かります。

WHEEL

ホイール

PSS-51のホイールには操作パネル上部に示されている4タイプの機能を設定することができます。

0 ピッチベンド (PITCH BEND)

[設定範囲：-12~12]

[初期設定：2]

ホイールを動かすことにより、鍵盤で演奏されている音色のピッチ（音の高さ）を変えます。

設定を12または-12にすると1オクターブの変化になります。

1 モジュレーション (MODULATION)

[設定範囲：1~7]

[初期設定：5]

ホイールを動かすことにより、鍵盤で演奏されている音の音程を微妙に変化させて震わせませす（ビブラート）。

2 テンポ (TEMPO)

[設定範囲：20~120]

[初期設定：60]

ホイールを動かすことにより、アカンパニメントのテンポを変化させます。

- ・ホイールの設定値によっては、リズムスタイルのテンポの範囲40よりテンポ値が小さくなってしまふ場合があります。その場合、マルチディスプレイに“S t P”（STOP/ストップ）を表示し、範囲内に戻るまでアカンパニメントがストップします。



3 テンポ&ピッチ (TEMPO&PITCH)

ホイールを動かすことにより、テンポとオートアカンパニメントを含む演奏音のピッチを同時にコントロールします。各々の設定値は、0ピッチベンド、2テンポで設定した値となります。

- ・テンポ&ピッチを選んでホイールを動かすと、マルチディスプレイには“--”が表示されます。

ホイール機能の設定

① [WHEEL]ボタンを押す

マルチディスプレイに現在のホイール機能番号が表示されます。

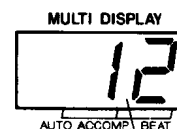
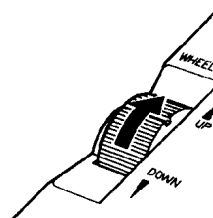


② ホイール機能番号を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、ホイール機能番号を入力します。

ホイール機能の設定範囲をセット

① ホイールをUP方向またはDOWN方向にいっぱいまで回す



現在の初期値

② ①の状態を設定値を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って設定値を入力します。

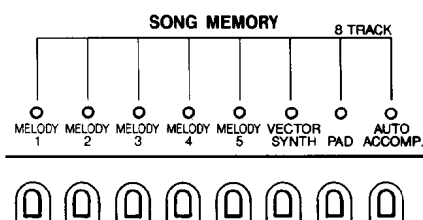
- ・ピッチベンドではマイナスの設定ができます。マイナスの設定は、ピッチベンド効果がプラスの場合の反対になります。
- ・ホイールの設定は、乾電池が弱くなったり、電源アダプターがはずれるなどして電力が供給されなくなると初期設定に戻ります。

ソングメモリー

PSS-51の重要な特徴の一つにソングメモリー機能があります。この機能は、PSS-51で演奏した曲を最大8曲まで録音することができます。しかし、カセットレコーダーのように実際の声や音を録音するのではなく、『何小節の何拍目にどの音で弾いた』というような演奏データをメモリーします。メロディートラックやオートアカンパニメントトラックなど合わせて8つのトラックがありますから、録音や作曲に役立ちます。

録音トラック

PSS-51には以下の8トラックがあります。



メロディートラック1～5 (MELODY 1～5)

5つのメロディートラックがあります。メロディー用鍵域の演奏データ（ボイス番号、ハーモニーのオン、オフを含むボイスエフェクト、ホイール情報）をメモリーします。

ベクターシンセトラック (VECTOR SYNTH)

ベクターシンセに関する情報をメモリーします。ジョイスティックに設定されている4ボイス、ジョイスティックの動きによる4ボイスのミックスバランス、ベクターシンセにかかるボイスエフェクトやホイール機能の効果も含まれます。

パッドトラック (PAD)

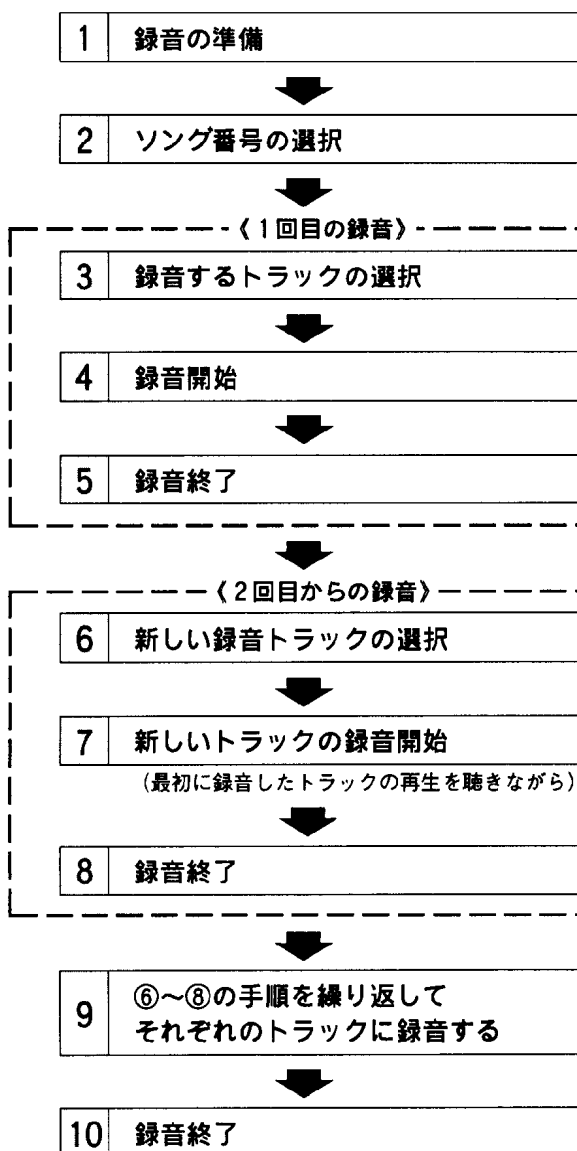
パーカッションパッド、サウンドエフェクトパッドに関する情報をメモリーします。

オートアカンパニメントトラック (AUTO ACCOMP.)

オートアカンパニメントに関する情報をメモリーします。リズムスタイル、オーケストレーション、フィンガリングの変更、アカンパニメントコントロールの色々なボタン操作などを含みます。

基本的な録音の手順

次の手順に沿って録音をします。



注意

ソングメモリー機能を使っている録音、再生中に電源アダプターをはずしたり、乾電池が弱くなったりして電源が供給されなくなると、曲の一部が失われてしまうことがありますのでご注意ください。

録音の準備

始めに各トラックの録音のための準備をします。

◆メロディートラック

ボイス番号を選びます。各ボイスエフェクト（ボリューム、ハーモニー、サステイン、リバーブ）を必要に応じて設定してください。特にボリュームについては、他のトラックとの音量バランスを考えて設定します。（22、23ページ参照）

ワンタッチでリズムスタイルに合ったボイスとボイスエフェクトの設定ができるレジストレーションメモリーも使えます。（31ページ参照）

◆ベクターシンセトラック

ベクターシンセに4音色を設定します。各ボイスエフェクト（ボリューム、サステイン、リバーブ）を必要に応じて設定してください。（36ページ参照）

・ベクターシンセトラックが録音待機状態になると、[VECTOR SYNTH ON/OFF]ボタンの上のランプが点灯し、自動的にベクターシンセ機能がオンになります。

◆パッドトラック

必要に応じてパーカッショングループ、サウンドエフェクトグループを選びます。カスタムパーカッション、カスタムサウンドエフェクトを使用する場合は、パーカッションサウンド、サウンドエフェクトをパッドに設定しておきます。（32～35ページ参照）

◆オートアカンパニメントトラック

リズムスタイル番号を選びます。必要に応じてフィンガリング、オーケストレーション、アカンパニメントコントロールを設定します。（24～30ページ参照）

・フィンガリングの設定がされていない状態で、オートアカンパニメントトラックが録音待機状態になると、フィンガードモードが自動的にオンになります。

・上記の設定は録音の直前や途中でも変更することができます。

録音のヒント（トラックシートの作成）

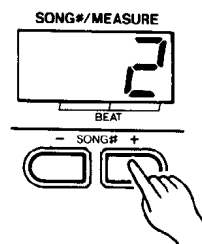
ソングの録音をするときは、トラックシートを作成することをお勧めします。トラックごとの様々な設定や小節ごとのボタン操作などをメモしておくことで、ソング全体のバランスをとるためにとても役立ちます。

No.	Name	Date	
トラック名	ボイス	ボリューム	ハーモニー
MELODY 1			
MELODY 2			
MELODY 3			
MELODY 4			
MELODY 5			
VECTOR SYNTH			

録音

① ソング番号の選択

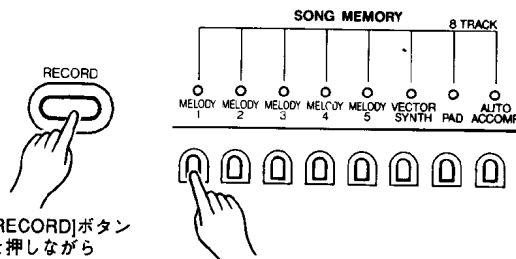
[SONG#]選択ボタン[+]または[-]ボタンを押してソング番号を選びます。ソング番号/メジャーディスプレイは選択したソング番号を表示した後、小節（メジャー）番号を表す“001”に戻ります。



② 録音するトラックの選択

[RECORD]ボタンを押しながら、録音したいトラックのボタンを押します。選択されたトラックのランプとソング番号/メジャーディスプレイの3つのドットが同時に点滅して録音待機状態になったことを示します。このとき、[SYNCHRO START/STOP]ボタンのランプも点滅し、自動的にシンクロスタート待機状態になります。

ランプの点滅しているトラックボタンをもう一度押せば録音待機状態は解除されます。



[RECORD]ボタンを押しながら

録音のテンポ

録音のテンポは自由に設定できます。

テンポは録音の待機状態になると目安として、[SYNCHRO START/STOP]ボタンの上のランプとソング番号/メジャーディスプレイ下部の3つのドットがメトロノーム音と共に点滅します。

ただし、オートアカンパニメントトラックの録音の場合は、メトロノーム音は発音しません。

複数のトラックの同時録音について

一度に複数のトラックを同時に録音することができます。[RECORD]ボタンを押しながら[PLAY]ボタンを押すと、メロディートラック1とオートアカンパニメントトラックが同時に録音待機状態になります。

注意

メロディートラック1～5、ベクターシンセトラックの2つ以上のトラックを同時に録音することはできません。

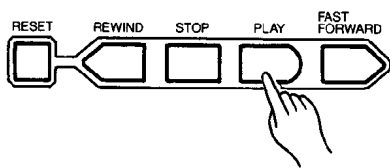
ソングメモリーを使って録音

③ 録音のスタート

録音のスタートには2つの方法があります。

- 1 [PLAY]ボタンを押す
- 2 鍵盤で演奏するか、パッドを叩く
(MIDI INから押鍵情報を受信した場合も同様)

録音中、ソング番号/メジャーディスプレイは小節数をカウント表示し、ソング番号/メジャーディスプレイ下部の3つのドットはテンポに合わせて点滅します。



ソングの長さ

曲の長さは1番長いトラックの長さで決まります。

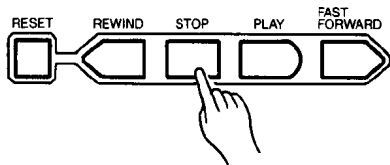
- ・オートアカンパニメント録音時[ENDING]、[FADE IN/OUT]ボタンを使って演奏を終了した場合、オートアカンパニメントの終わった小節がソングの長さになります。終了小節以降のデータが全て消去してしまいますのでご注意ください。

④ 録音のストップ

[STOP]ボタンを押すと録音がストップします。

オートアカンパニメントトラックの録音の場合、[ENDING]、[FADE IN/OUT]または[START/STOP]ボタンを押しても録音をストップすることができます。

録音が終了すると、ソング番号/メジャーディスプレイは自動的に録音を開始した小節表示に戻ります。録音が終了したトラックは、ランプが点滅から点灯にかわります。



⑤ 新しいトラックの録音

②~④の操作を繰り返して、新しいトラックを録音していきます。

すでに録音の終了したトラックのランプを点灯させれば、録音済みのトラックの演奏を再生しながら、新しいトラックを録音することができます。

注意

一度録音が始まると、そのトラックに録音されていたデータは、録音を開始した小節から新しいデータに書きかわります。録音したいトラックのみ、ボタンを押して待機状態にしてください。

録音中にPSS-51のメモリー容量がいっぱいになると、ソング番号/メジャーディスプレイに“Full”を表示し、それ以上録音ができなくなります。すでに録音されているソングデータの不要なものをクリアーし、もう一度録音してください。



再生

① ソング番号の選択

[SONG#]選択ボタン[+]または[-]ボタンを押してソング番号を選びます。ソング番号/メジャーディスプレイは選択したソング番号を表示した後、小節（メジャー）番号を表す“001”に戻ります。

② 再生するトラックを選択

録音データのあるトラックは自動的にランプが点灯して、再生待機状態になります。再生したくないトラックはトラックボタンを押してランプを消灯させ、再生待機を解除します。

③ 再生スタート

[PLAY]ボタンを押すと再生がスタートします。このとき、必要に応じて[RESET]、[REWIND]、[FAST FORWARD]ボタンを使って再生を始める小節を指定します。

◆リセットボタン (RESET)

1小節目に戻ります。

◆巻き戻しボタン (REWIND)

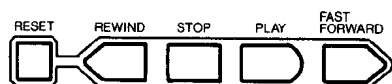
1回押すごとに、1小節ずつ戻ります。

押し続けると連続で戻ります。

◆早送りボタン (FAST FORWARD)

1回押すごとに、1小節ずつ進みます。

押し続けると連続で進みます。



④再生ストップ

[STOP]ボタンを押すと、再生はストップします。録音されたソングの最後まで再生すると自動的にストップして、1小節目に戻ります。

注意

録音中、再生中に電源アダプターがはずれたり、乾電池が弱くなったりなどして電源が供給されなくなると録音中、再生中のソングデータの一部が消去されてしまいますのでご注意ください。

録音したソングデータの修正

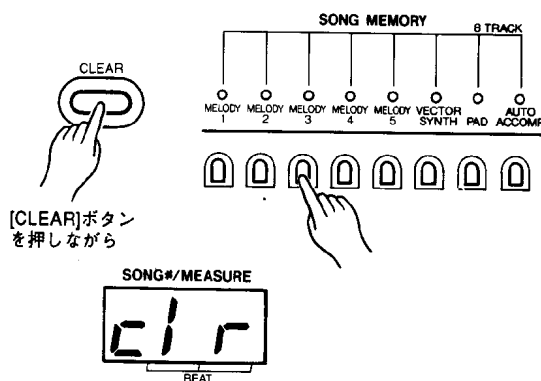
録音したソングデータの修正には次の方法があります。

トラックデータの消去

1つのトラックに録音してあるデータをすべて消す方法です。

① [CLEAR]ボタンを押しながらトラックボタンを押す

ソングディスプレイに“clr”と表示され、そのトラックデータは消去されます。データの消去されたトラックのランプは消灯します。



全トラックの、指定した小節より後ろのデータを消す場合

① [REWIND]、[FAST FORWARD]ボタンを使って小節位置を決める

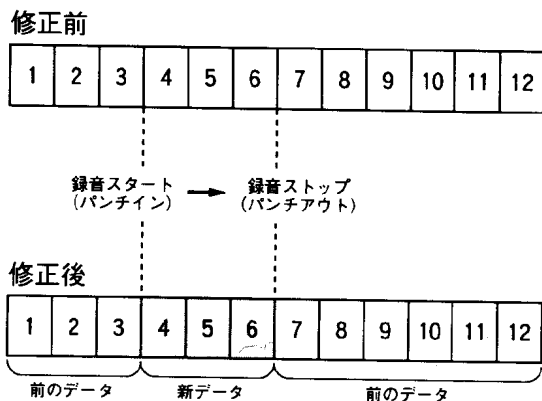
② [CLEAR]ボタンを押しながら、[STOP]ボタンを押す
ソングディスプレイに“clr”と表示され、すべてのトラックの指定した小節より後ろのデータが消去されます。

1小節目を指定すれば、ソング全体が消去されます。

曲の部分修正 (パンチイン/アウト)

パンチイン/アウト操作を使って、ソングを小節単位で部分的に修正する方法です。

下の例では、4小節頭から6小節最後までを新しい録音データに書きかえます。



①修正するトラックを選ぶ

②トラックの修正する位置を決める

[FAST FORWARD]、[REWIND]ボタンを使って、パンチイン/アウトしたい小節番号をソング番号/メジャーディスプレイに表示します。

・修正は必ず小節単位で行なってください。修正箇所が小節の途中からだったり、小節の途中で修正箇所が終わる場合でも、小節の始めから終わりまで修正してください。

③修正トラックを録音待機状態にする

[RECORD]ボタンを押しながら修正トラックボタンを押します。修正トラックのランプが点滅して録音待機状態になります。

④再録音スタート (パンチイン)

もう一度演奏します。他に録音済みのトラックがある場合、そのトラックのランプを点灯させれば再生を聴きながら演奏することもできます。

⑤再録音ストップ (パンチアウト)

[STOP]ボタンを押して録音を終了します。ソング番号/メジャーディスプレイは自動的にパンチインを始めた小節に戻りますので、何度でも同じ箇所の修正ができます。

録音情報を知るために

録音されたソングの設定 (音色番号、リズムスタイル番号、サウンドエフェクトの各設定など) は、[KBD TRANSMIT CH]ボタンを使って簡単に知ることができます。

次の手順に沿って操作してください。

① ソングを選ぶ

② [KBD TRANSMIT CH]ボタンを押す

③ 知りたいトラックのMIDIチャンネル番号を入力する
49ページ“MIDIチャンネル、ソングメモリートラック対応表”参照。

④ 知りたい情報に関するボタンを押す
例えば、[VOICE]ボタンを押せば、ボイス番号が、[HARMONY]ボタンを押せば、ハーモニータイプ番号がマルチディスプレイに表示されます。

⑤ 必要に応じて②から④の操作を繰り返してください。

ソングメモリーで多重録音してみよう

ここではソングメモリーを使って簡単な多重録音を試してみましょう。サンプル曲はベートーベンのピアノソナタです。その非常に有名な美しいメロディーに合わせて『初めてガールフレンド(?)に電話をかけるとき』のイメージを作ってみました。

まずメロディーを弾いてみましょう。きっと「ああ、あの曲…」と思われるはずです。拍数に気をつけて練習してみましょう。

次はオートアカンパニメントです。No.79のリズムスタイルは少し悲しげでムーディーな伴奏ですから、うまく電話がかかると心配です。使用する8つのコードは、楽譜の上に鍵盤の押さえ方を示してありますので、楽譜のコード進行に合わせて練習してみましょう。シングルフィンガー、フィンガードの弾きやすいモードを選んでください。

パッドトラックにはサウンドエフェクトの電話の音を使います。パーカッションパッドも叩いてみましょう。

4トラックはたいへんだと思われる方は、メロディー2トラックを省いてもかまいません。各トラックの録音方法に従ってトライしてください。[RECORD]ボタンを押しながらトラックボタンを押すと、そのトラックが録音待機状態になります。

① オートアカンパニメントトラック

設定

- ・リズムスタイル No.79 New Age
- ・テンポ ♩=80 (初期設定)
- ・フィンガリングモード シングルフィンガー
またはフィンガード
- ・アカンパニメントコントロール ノーマル

テンポが少し速すぎると思われる方は、もう少しゆっくりしたテンポ(例えば♩=65)を設定してください。オートアカンパニメントトラックを録音待機状態にすると、フィンガーモードが自動的にオンになり、シンクロ待機状態になります。シングルフィンガーモードで演奏する場合は、[SINGLE FINGER]ボタンを押してください。[INTRO]ボタンを押し、Cコードより演奏を始めます。12小節の4拍目に[FILL 2]ボタンを押してください。自動的にリズムはブリッジパターンへかわります。21小節目で[ENDING]ボタンを押して演奏を終了します。

② メロディー1トラック

設定

- ・ボイス プリセットレジストレーション (ノーマル)

オートアカンパニメントをノーマル([BRIDGE]ボタンのランプ消灯)に戻してから、[REGISTRATION MEMORY]ボタンを押してください。[PLAY]ボタンを押してオートアカンパニメントの再生を聞きながら録音します。イントロの3小節を聞いて4小節目からのスタートになります。最初の12小節はボイスNo.78“FANTAZY 2”、リズムパターンがノーマルからブリッジへ変更すると、ボイスは自動的にNo.72“CHORUS”へ変わります。

③ メロディー2トラック

設定

- ・ボイス No.80 BELL STRINGS
- ・ボリューム 18

オートアカンパニメントとメロディー1トラックを聞きながら録音してください。

④ パッドトラック

設定

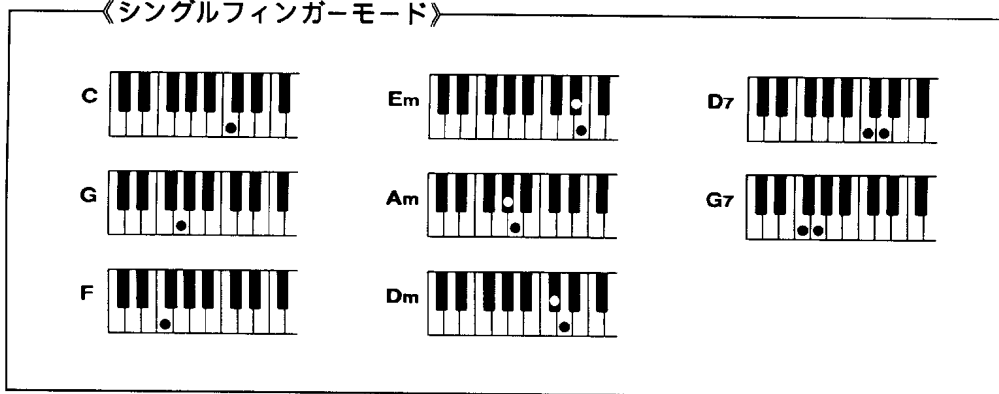
- ・サウンドエフェクトパッド No.6 TELEPHONE
- ・パーカッションパッド No.4 JAZZ

[PLAY]ボタンを押してオートアカンパニメントの再生が始まったら、プッシュホンの要領でサウンドエフェクトパッド①を適当に押してください。そのあとサウンドエフェクトパッド③を押すとコールが始まります。でも、ガールフレンドはなかなか出ません。留守なのではないでしょうか? 11~21小節までのパーカッションパッド⑦⑧は譜面のように押してみてください。22小節からもう一度電話をかけてみましょう。最後にサウンドエフェクトパッド④を押すと...



ソングメモリーを使って録音

《シングルフィンガーモード》



♩ = 80

1 SYNCHRO START/STOP
INTRO C C G

2

3

4 1 1 1 1 1 1 1 1 3 3

Musical notation for the first system, including a treble and bass staff with a guitar fretboard diagram below. The fretboard diagram shows fingerings: 1 1 1 1 1 1 1 1 3 3.

C C D7 G F G7

3

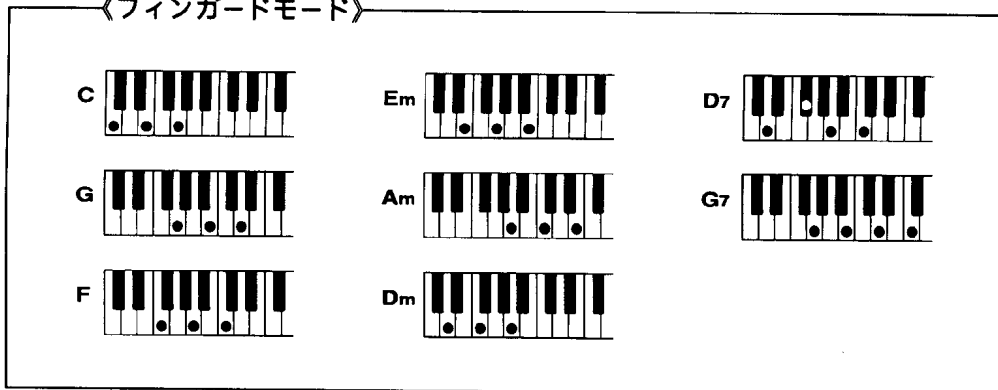
Musical notation for the second system, including a treble and bass staff with a guitar fretboard diagram below. The fretboard diagram shows a single finger (3) for the first measure.

Em Am Dm G7 C FILL 2

8 8 8 7

Musical notation for the third system, including a treble and bass staff with a guitar fretboard diagram below. The fretboard diagram shows fingerings: 8 8 8 7.

〈フィンガードモード〉



C G C C D7 G

8 8 8 8 8 8

The first system of musical notation consists of two staves. The top staff shows a sequence of notes: C4, G4, C5, C5, D5, G5. The bottom staff shows a sequence of notes: C4, G4, C4, G4, F4, E4. Below the staves are six boxes, each containing the number '8', corresponding to the chords listed above.

F G7 Em Am Dm G7

8 8 8 8 8 8

The second system of musical notation consists of two staves. The top staff shows a sequence of notes: F4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The bottom staff shows a sequence of notes: F4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. Below the staves are six boxes, each containing the number '8', corresponding to the chords listed above.

C ENDING

1 1 1 1 1 1 1 3 3 3 4

The ending section consists of two staves. The top staff shows a sequence of notes: C4, G4, C5, G5, C5, G5, C5, G5. The bottom staff shows a sequence of notes: C4, G4, C4, G4, F4, E4, D4, C4. Below the staves are ten boxes containing the numbers: 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 3, 3, 3, 4.

その他の機能

PSS-51には、他の楽器や歌手に音程を合わせるトランスポーズ、チューニング機能が付いています。この機能を使って、楽器や人と、いろいろ演奏の輪を広げましょう。

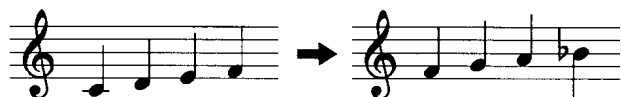
TRANSPOSE

トランスポーズ

【設定範囲：-24~24】

【初期値：0】

トランスポーズ機能は、鍵盤の音の高さを変える（移調する）機能です。他の楽器や歌手に音程を合わせるときに使用します。設定値1は半音に当たりますから、±2オクターブ（±24半音）の設定ができます。例えば“+5”に設定すると楽譜上では次のような変化になります。



①トランスポーズを選択する

[TRANSPOSE]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のトランスポーズの設定値が表示されます。



②トランスポーズ値を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って-24~24の間でトランスポーズ値を入力します。[+]、[-]ボタンは押し続けると連続して値が増減します。

初期設定値の“0”に戻すときは、[+]、[-]ボタンを同時に押します。

- ・トランスポーズ機能は、音色番号68、94~98の音色には働きません。
- ・トランスポーズ機能は、[TRANSPOSE]ボタンを押した次の押鍵から働きます。

TUNING

チューニング

【設定範囲：-16~16】

【初期値：0】

他の楽器との微妙な音程の違いを合わせるのに使います。1/2半音を16分割して調整に使います。

①チューニングを選択する

[TUNING]ボタンを押すと、マルチディスプレイに現在のチューニングの設定値が表示されます。



②チューニング値を入力する

テンキーの[+]、[-]ボタンを使って-16~16の間でチューニング値を入力します。[+]、[-]ボタンは押し続けると連続して値が増減します。

初期設定値の“0”に戻すときは、[+]、[-]ボタンを同時に押します。

PSS-51は、MIDI機能（MIDI端子）を持った楽器です。MIDI機能を活用することによって、音楽の可能性を広げることができます。ここでは、MIDIとは何か、MIDIでできること、PSS-51でコントロールできるMIDI情報、PSS-51のMIDI操作について説明します。

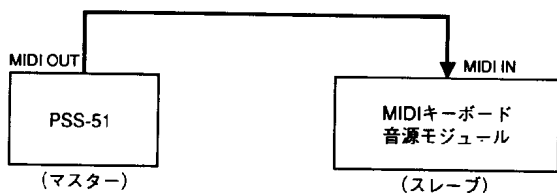
MIDIとは？

MIDIとは、ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェース（Musical Instrument Digital Interface）の頭文字をとったもので“ミディ”と読みます。MIDIは、複数の楽器の間で演奏に関する様々な情報をデジタルデータとしてやり取りするために考え出された世界統一規格です。

MIDIを使ってどんなことができる？

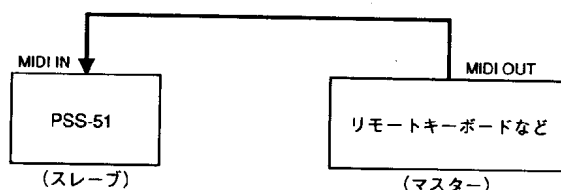
MIDIは、接続する楽器やその台数、演奏の仕方によっていろいろな使い方があります。ここでは、MIDIを使ってできることを簡単な例で説明します。

◆1台の楽器を演奏して複数の楽器を同時に鳴らす



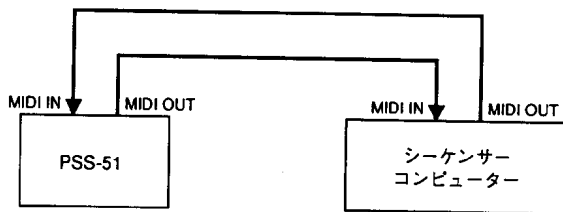
もっともシンプルな接続です。PSS-51とMIDIキーボードまたは音源モジュールと接続します。マスター側のPSS-51で演奏をすると、スレーブ側のMIDIキーボードや音源モジュールで自動的に音が鳴りだします。MIDIではコントロールする側をマスター、コントロールされる側をスレーブと言います。マスターの音にスレーブの音を重ねることで、音に厚みが加わります。

◆音源を持たないリモートキーボードなどを鳴らす



音源を持たないリモートキーボードなどとPSS-51を接続します。電子楽器の音源部分を取り除き、鍵盤部の機能のみを独立に持つキーボードの音源として使用できます。また、PSS-51を音源としてレギュラー鍵盤で演奏する場合や、音の強弱を表現できるタッチレスポンス付きのキーボードで演奏するときにもこの接続を使います。

- ◆コンピューターやシーケンサーのデータ入力やデータの再生のための音源として使う
- ◆コンピューターやシーケンサーでPSS-51のデータを保存し、必要に応じて再生する



PSS-51をコンピューターやシーケンサーと接続すれば、データの入力に使うことができます。また、入力した曲を聴くときの音源としても使えます。コンピューターやシーケンサーへPSS-51のソングメモリーデータ、レジストレーションメモリーデータを送信して、データとして保存することができます。
 （コンピューターと接続する場合、インターフェイスが必要なものもあります。）

MIDI情報

〈MIDIチャンネルについて〉

MIDIにはチャンネルが16あり、MIDI情報はチャンネル情報といっしょに送受信されます。

このチャンネルはテレビのチャンネルと同じようなもので、送信側と受信側が同じチャンネルを選ぶことで、データのやり取りができます。

MIDIは16チャンネルありますから、例えば、1チャンネルにメロディーパート、2チャンネルにコードパート、3チャンネルにベースパートとか、1チャンネルにピアノ、2チャンネルにトランペット、3チャンネルにエレキギターといったように演奏パートやボイスごとにチャンネルをかえることで、一度に複数の演奏データを送受信し、オーケストラのように演奏することができます。

〈PSS-51でコントロールできるMIDI情報について〉

MIDI情報はチャンネルメッセージとシステムメッセージの2つに分けられます。

チャンネルメッセージは、チャンネルごとの情報を伝えます。ノートオン/オフ、ピッチベンド、コントロールチェンジ、プログラムチェンジなどがあります。

システムメッセージは、MIDIシステム全体に関する情報を伝えます。クロック、スタート/ストップ、アクティブセンスなどがあります。

チャンネルメッセージ

◆ノートオン/オフ

このメッセージは鍵盤を押したり、離したりしたときに送られる情報です。どの鍵盤をどのくらいの強さで弾いたか、という情報が含まれています。

◆ピッチベンド

ホイールを動かしてピッチベンド効果を働かせたときに送られる情報です。

◆コントロールチェンジ

モジュレーション（ビブラート）、ボリューム、サステイン、リバーブが変更されたときに送られる情報です。

◆プログラムチェンジ

ボイス番号を変更したときに送られる情報です。

PSS-51は、ボイス番号とMIDIプログラム番号が同じです。接続した機器のボイスを変更するときは、そのボイスのMIDIプログラム番号と同じ番号のボイスをPSS-51で選んでください。

(接続した機器のMIDIプログラム番号は、その機器の取扱説明書をお読みください。)

システムメッセージ

◆クロック、スタート、ストップ

MIDIで同期演奏（複数の機器の同時スタート/ストップなど）するときに送られる情報です。

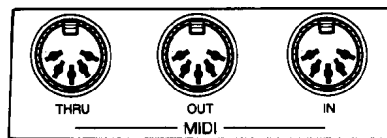
◆アクティブセンス

MIDIの接続が外れて、情報が送受信できなくなるトラブルを防ぐために送られている情報です。この情報がある一定時間送られて来なくなると、受信側の楽器では、現在発音している音を止め演奏を中止します。

MIDI接続

〈MIDI端子〉

MIDI端子には、次の3種類があります。



◆MIDIイン (MIDI IN) 端子

他のMIDI楽器からのMIDI情報を受け入れる端子です。

◆MIDIアウト (MIDI OUT) 端子

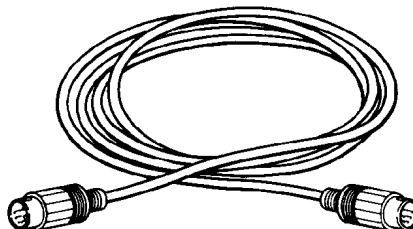
PSS-51から他のMIDI楽器へMIDI情報を送る端子です。

◆MIDIスルー (MIDI THRU) 端子

MIDI IN端子から受け入れたMIDI情報を、そのまま他のMIDI楽器へ送る端子です。

〈MIDIケーブル〉

MIDI接続にはMIDIケーブルを使用します。あまり長いケーブルを使うと情報伝達が遅れたり、うまく送れない場合がありますので、15m以内のものをご使用ください。



PSS-51のMIDI操作

KBD TRANSMIT CH

送信チャンネルの設定

PSS-51の送信チャンネルを選びます。

- ・PSS-51ではパーカッションサウンド、サウンドエフェクトの送信チャンネルは16に固定されています。
- ・受信側のMIDI受信チャンネルに、送信チャンネルを合わせます。

① [KBD TRANSMIT CH]ボタンを押す

マルチディスプレイに現在選ばれているMIDI送信チャンネルが表示されます。



② テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、送信チャンネルを入力する

PSS-51の押鍵による演奏情報のMIDI送信チャンネルを決めます。

- ・MIDI送信チャンネルの設定は、ベクターシンセやレジストレーションメモリーがオンのとき、ソングメモリー録音中や録音待機中はできません。

送信チャンネルについて

PSS-51の演奏データは、以下のように決められたMIDIチャンネルから送信することができます。下の表を参考に、受信楽器のチャンネルを合わせてください。

演奏データ	送信チャンネル
鍵盤演奏	1～16
パッド演奏	16
ベクターシンセ・オン時の鍵盤演奏	1～4
オートアカンパニメント演奏	10～16
ソングメモリー使用時	
ベクターシンセ	1～4
メロディー1～5	5～9
リズム演奏	16
ベース演奏	15
コード演奏	14
その他の演奏	13
パッド演奏	16

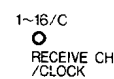
RECEIVE CH/CLOCK

受信チャンネルの設定

他のMIDI楽器からのMIDI情報をPSS-51で受信するチャンネルを選びます。送信側のMIDI送信チャンネル番号に、この番号を合わせてください。

① [RECEIVE CH/CLOCK]ボタンを押す

マルチディスプレイの右側にMIDI受信チャンネルが、左側にそのチャンネルの受信設定が表示されます。Eまたはdは、そのチャンネルの受信設定を表しています。



② テンキーの[+]、[-]ボタンを使って受信チャンネルを入力する

③ [RECEIVE CH/CLOCK ON/OFF]ボタンを押してチャンネルの受信設定をする



- E……受信可能状態 (オン)
- d……受信不可状態 (オフ)

④ ②③を繰り返し、チャンネルごとに受信設定する

- ・初期設定は、すべてのチャンネル (CH 1～16) が受信オンになっています。

クロックの設定

外部のシーケンサーなどから、PSS-51のソングメモリーに録音されたソングのスタートやストップ、テンポをコントロールするときに受信をオンに設定します。

① [RECEIVE CH/CLOCK]ボタンを押す

マルチディスプレイの右側にMIDI受信チャンネルが、左側にそのチャンネルの受信設定が表示されます。Eまたはdは、そのチャンネルの受信設定を表しています。

② テンキーの[+]、[-]ボタンを使って、マルチディスプレイにクロックの表示“C”を出す

③ [RECEIVE CH/CLOCK ON/OFF]ボタンを押して、クロックの受信設定をする



E……受信可能状態（オン）
d……受信不可状態（オフ）

- ・クロックの初期設定は、受信オフになっています。
- ・クロック設定オンの場合でも、オートアカンパニメントのスタート、ストップは外部からコントロールすることはできません。
- ・送信の場合は、クロックは常に受信オンになっています。
- ・外部キーボード（マスター）で、オートアカンパニメントをスタートさせたい場合は、PSS-51（スレーブ）をシンクロ待機状態にし、マスターキーボードでコントロールしてください。

MEMORY BULK DUMP

メモリーバルクダンプ

MIDI楽器間で、データ保存のために、まとめてデータを送受信することをバルクダンプと言います。

PSS-51では、ソングメモリーデータおよびレジストレーションメモリーデータをバルクダンプすることができます。

送信操作

① [KBD TRANSMIT CH]ボタンを押す

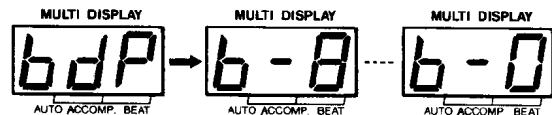
② [MEMORY BULK DUMP]ボタンを押す

マルチディスプレイに“bdp”（bulk dump）が表示され、すべての音が止まり、バルクダンプ待機状態になります。



③ もう一度[MEMORY BULK DUMP]ボタンを押す

データの送信が始まります。マルチディスプレイは送信状況を表示します。



送信は約50秒で終わり、マルチディスプレイはボイス番号表示になります。

- ・バルクダンプ中は、PSS-51での操作や演奏はできません。

受信操作

特に受信のための操作はしませんが、受信可能なデータが送られてきた場合に限り、発音中の音を止め受信状態になります。受信すると、マルチディスプレイに送信と同じ表示で受信状況を表します（“bdp” → “b-8” → “b-0”）。受信が終了すると、マルチディスプレイはボイス番号表示になります。

注意

バルクダンプでデータを受信するとPSS-51にメモリーされていたソングメモリー、レジストレーションメモリーデータが受信したデータに書きかわります。バルクダンプ時に、何かのトラブルでデータの受信が失敗した場合、エラーメッセージ表示後、本体機能は受信前の状態に戻りますが、ソングメモリー内のデータはすべて消えてしまいますのでご注意ください。

PSS-51のMIDI送受信データ

◆ピッチベンド (PITCH BEND)

ピッチベンドは、ホイール機能 (37ページ参照) の設定範囲により、送受信データの可変範囲が変わります。

(例) ホイール設定12の時…ピッチベンドデータ=00H,00H~7FH,7FH
ホイール設定1の時…ピッチベンドデータ=3CH,3AH~20H,45H

◆プログラムチェンジ (PROGRAM CHANGE)

PSS-51ではMIDIプログラム番号とボイス番号は同じですから、00~99のMIDIプログラム番号を送受信することができます。

◆コントロールチェンジ (CONTROL CHANGE)

次のデータフォーマットで送受信します。

データフォーマット: B n H → c c → v v
B n H: Control Event (n=channel number)
c c: Control Number
v v: Control Value

・ c c = 0 1 H; モジュレーション (ビブラート)

v v = 0 0 H ~ 0 F H: 0 (オフ)
1 0 H ~ 1 F H: 1 (最小)
2 0 H ~ 2 F H: 2
3 0 H ~ 3 F H: 3
4 0 H ~ 4 F H: 4
5 0 H ~ 5 F H: 5
6 0 H ~ 6 F H: 6
7 0 H ~ 7 F H: 7 (最大)

初期設定はボイスによって異なります。

・ c c = 0 7 H; ボリューム

v v = 7 F H: 2 4 (パネル設定; 最大)
0 1 H: 0 1 (-24dB)
0 0 H: 0 0 (発音しない)

初期設定値は 6 F (パネル設定; 21) です。

・ c c = 4 0 H; サステイン

v v = 0 0 H ~ 3 F H: 0 (オフ)
4 0 H ~ 7 F H: 1 (オン)

初期設定値は 0 (オフ) です。

・ c c = 5 B H; リバーブ

v v = 0 0 H ~ 1 F H: 0 (オフ)
2 0 H ~ 3 F H: 1
4 0 H ~ 5 F H: 2
6 0 H ~ 7 F H: 3 (最大)

初期設定値は 0 (オフ) です。

バルクデータフォーマット

《ソングメモリーのヘッダーとEOX》

```

1 1 1 1 0 0 0 0   ステータス=F 0 H
0 1 0 0 0 0 1 1   メーカーID=4 3 H (ヤマハ)
0 1 1 1 0 1 1 0   デバイスID=7 6 H
                    (ポータブルキーボード)
0 0 0 0 1 1 0 1   データフォーマット番号=0 D H
                    (PSS-51)
1 1 1 1 1 1 1 1   データ数 (Low byte)
h h h h h h h h   データ数 (High byte)
d d d d d d d d

```

ソングメモリーデータ
(次ページ参照)

```

d d d d d d d d
0 c c c c c c c

```

チェックサムデータ (=データバイトを
加算したものの2の補数)
EOX=F 7 H

```

1 1 1 1 0 1 1 1

```

《レジストレーションメモリーのヘッダーとEOX》

```

1 1 1 1 0 0 0 0   ステータス=F 0 H
0 1 0 0 0 0 1 1   メーカーID=4 3 H (ヤマハ)
0 1 1 1 0 1 1 0   デバイスID=7 6 H
                    (ポータブルキーボード)
0 0 0 0 1 1 1 0   データフォーマット番号=0 E H
                    (PSS-51)
1 1 1 1 1 1 1 1   データ数 (Low byte)
h h h h h h h h   データ数 (High byte)
d d d d d d d d

```

レジストレーションメモリーデータ
(次ページ参照)

```

d d d d d d d d
0 c c c c c c c

```

チェックサムデータ (=データバイトを
加算したものの2の補数)
EOX=F 7 H

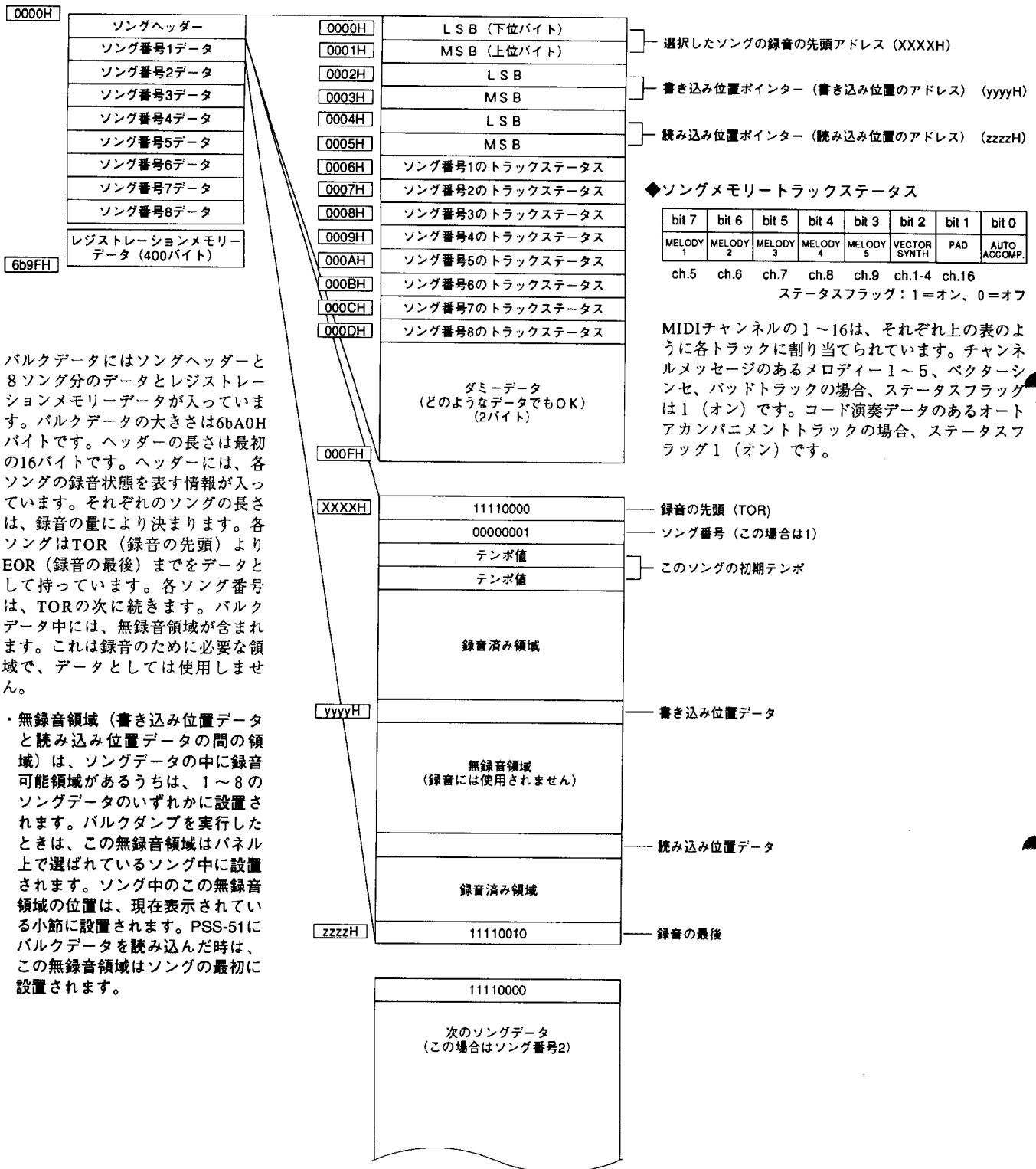
```

1 1 1 1 0 1 1 1

```

〈バルクデータ〉

下記の図のデータバイトは、2つのデータで構成されています。



《各ソングデータの内容》

各ソングデータには、録音の有無にかかわらずヘッダーとフッターが存在します。

◆ヘッダー (HEADER)

1 1 1 1 0 0 0 0 Top of Record (TOR)
 0 0 0 0 0 n n n n n=Song number (0-7)
 0 t t t t t t t t t=Tempo1 (40≤Tempo1≤127)
 0 v v v v v v v v v=Tempo2 (128≤Tempo2≤240)

◆フッター (FOOTER)

1 1 1 1 0 0 1 0 End of Record (EOR)

◆インターバルデータ (INTERVAL DATA)

0 t t t t t t t t t=Time length
 (01H: 1/24 Beat, 18H: 1 Beat)

◆パフォーマンスデータ (PERFORMANCE DATA)

・ノートオン (NOTE ON)

1 0 0 1 n n n n n=Channel no. (0-15)
 0 k k k k k k k k k=Note number (0-127)
 0 v v v v v v v v v=Velocity (0-127, 0: Note OFF)

・ノートオフ (NOTE OFF)

1 0 0 0 n n n n n=Channel no. (0-15)
 0 k k k k k k k k k=Note number (0-127)
 0 0 0 0 0 0 0 0 0 Velocity=fixed

・プログラムチェンジ (PROGRAM CHANGE)

1 1 0 0 n n n n n=Channel no. (0-15)
 0 p p p p p p p p p=Program number (0-127)

・コントロールチェンジ (CONTROL CHANGE)

1 0 1 1 n n n n n=Channel no. (0-15)
 0 c c c c c c c c *c=Control number
 0 v v v v v v v v *v=Control value
 *c=00 (Harmony)
 *v=Harmony type
 (0: OFF, 1: DUET, 2: TRIO,
 3: BLOCK, 4: COUNTRY,
 5: OCTAVE, 6: STRUM,
 7: TREMOLO, 8-11: ECHO,
 12-15: HARMONY+ECHO)

*c=01 (Modulation)
 *v=Depth (0-127)

*c=07 (Volume)
 *v=Value (0-127)

*c=64 (Sustain)
 *v=Value (0-127)

*c=91 (Reverb)
 *v=Depth (0-127)

◆ベクターシンセノートオン/オフ (VECTOR SYNTH NOTE ON/OFF)

1 1 1 1 0 0 1 1 Vector synth Note ON/OFF
 0 v n n n n n n n v=0 or 1 (0: Note OFF, 1: Note ON)
 n=Note number (0-63, 0: C1)

◆ベクターシンセボリューム (VECTOR SYNTH VOLUME)

1 1 1 1 0 1 0 0 Vector synth volume
 0 v v v v v v v v v=Ch.1 volume (0-127)
 0 s s s s s s s s s=Ch.2 volume (0-127)
 0 t t t t t t t t t=Ch.3 volume (0-127)
 0 u u u u u u u u u=Ch.4 volume (0-127)

◆コードチェンジ (CHORD CHANGE)

1 1 1 1 0 1 0 1 Chord change
 0 0 0 0 r r r r r=Root name (0-11, 0: C, 1: C# ... 11: B)
 0 0 0 0 c c c c c=Chord type
 (0: M, 1: m, 2: 7th, 3: M7, 4: m7, 5: aug (7),
 6: dim (7), 7: sus4, 8: m7-5, 9: 7sus4, 10: m6,
 11: mM7, 12: 7-5, 13: Single, 14: Single-P5)

◆メジャーマーク (MEASURE MARK)

1 1 1 1 1 0 0 1 Measure mark
 0 n n n n n n n n n=number of beat in a measure
 (1 beat=1/4note)
 0 m m m m m m m m m=measure number within a pattern

◆スタイルナンバー (STYLE NUMBER)

1 1 1 1 1 0 1 0 Style number
 0 0 0 0 0 0 0 0 s=Style (0-79)
 0 0 0 0 0 v v v v=variation
 (0: Normal, 1: Bridge, 2: Fill 1, 3: Fill 2,
 4: Intro, 5: Ending)

◆リラティブテンポ (RELATIVE TEMPO)

1 1 1 1 1 0 1 1 Relative tempo
 0 s 0 0 0 0 0 n s=sign bit (0: +, 1: -)
 0 d d d d d d d d d=Tempo difference (0-127),
 Relative tempo=128*n+d

◆アブソリュートテンポ (ABSOLUTE TEMPO)

1 1 1 1 1 1 0 0 Absolute tempo
 0 t t t t t t t t t=Tempo (40≤Tempo≤127)
 0 v v v v v v v v v=Tempo (128≤Tempo≤240)

◆フィルインステータス (FILL-IN STATUS)

1 1 1 1 1 1 0 1 Fill-in status
 0 s 0 0 0 0 0 n s=0 or 1 (0: OFF, 1: ON)
 n=Fill-in number (0: Fill 1, 1: Fill 2)

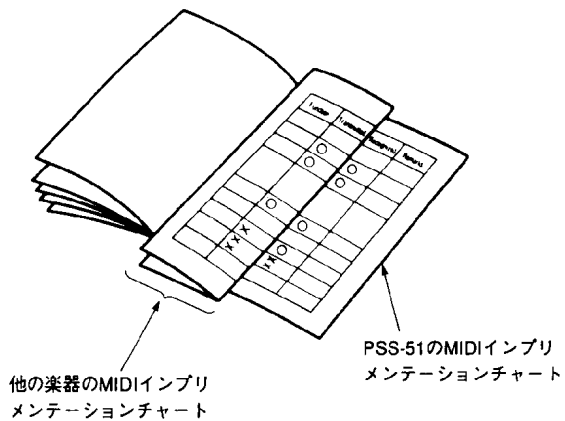
◆オーケストレーション (ORCHESTRATION)

1 1 1 1 1 1 1 0 Orchestration
 0 0 0 0 0 0 t t t=Orchestration type
 (1: Large, 2: Medium, 3: Small)

MIDIインプリメンテーションチャートの見方

MIDIインプリメンテーションチャートは、その楽器の送受信できるMIDI情報とその送受信条件を記入した表です。“送信”の欄はMIDI情報の送信について、“受信”の欄はMIDI情報の受信について、それが可能かどうかおよびその条件が書かれています。

MIDI接続するときは、まず接続する楽器のMIDI機能（ファンクション）を調べます。図のようにチャートを縦に2つ折りして対応する機能の欄を見比べます。2つのチャートの対応する送信と受信の項目に○が付いていればそのMIDI情報に関しては、お互いに送受信できます。



ファンクション...		送信 鍵盤演奏/アカンパニメント/リズム	受信	備考
ベーシックチャンネル	電源ON時 設定可能	1 / 10~15 / 16チャンネル 1~16チャンネル	1~16チャンネル 1~16チャンネル (※1)	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノート ナンバー:	音域	0~127 (※7) *****	0~127 0~127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	× 9nH, v=1~127 (※2) × 9nH, v=0	○ 9nH, v=1~127 × 9nH, v=0 or 8nH	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		○	○	14ビット解像度
コントロール チェンジ	1 7 10 64 91	○ ○ ○ (※7) ○ ○	○ (※3) ○ ○ (※3) ○ (※3) ○ (※3)	モジュレーション ボリューム パン サステイン リバーブ
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	○ 0~99 (※4) *****	○ 0~99 (※5) 0~99	
エクスクルーシブ		○	○	
	: ソング・ポジション コモン: ソング・セレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	: クロック : コマンド	○ ○	○ (※6) ○	
その他	: ローカルON/OFF : オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : リセット	× × ○ ×	× ○ ○ ×	
<p>備考</p> <p>※1: チャンネルごとにオン/オフ指定が可能。 ※2: 鍵盤演奏 : 5AH固定。 PAD : 78H固定。 アカンパニメント : 種々の値をとる。 ソングメモリー再生時: ベロシティ付きで録音されたものはそのまま再生される。</p> <p>※3: ボイスによっては受信しない。 ※4: 0~99に対してはボイス番号0~99がそれぞれ対応する。 ※5: 16チャンネルは受信しない。 ※6: オン/オフ指定が可能。 ※7: デモソング、オートアカンパニメントの演奏データとして出力される。</p>				

モード1 : オムニ・オン、ポリ
 モード3 : オムニ・オフ、ポリ

モード2 : オムニ・オン、モノ
 モード4 : オムニ・オフ、モノ

○ : あり
 × : なし

資料

ボイス同時発音数表

PSS-51の最大同時発音数はオートアカンパニメント、ソングメモリー、パッド、MIDI INからの情報に基づく発音などすべてを含めて28です。下の表のようにボイスの中には2音以上の音を同時に発音して1つのボイス音を出すものがあります。合計28音を越える発音に対しては、マルチディスプレイに“CFu”と表示し、それ以上発音されないことを知らせます。

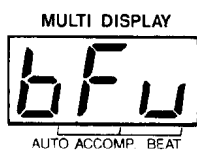
ボイス番号	ボイス名	使用発音数	ボイス番号	ボイス名	使用発音数
00	ピアノ	1	50	チューバ	1
01	フランジピアノ	2	51	プラスアンサンプル1	3
02	ホンキートンクピアノ	2	52	プラスアンサンプル2	3
03	エレクトリックピアノ1	2	53	ピッコロ	1
04	エレクトリックピアノ2	2	54	フルート	1
05	エレクトリックピアノ3	2	55	クラリネット	1
06	ハーブシコード1	1	56	バスクラリネット	1
07	ハーブシコード2	2	57	オーボエ	1
08	クラビ	1	58	イングリッシュホルン	1
09	チェレスタ	1	59	バスーン	1
10	パイプオルガン1	2	60	ソプラノサククス	1
11	パイプオルガン2	2	61	アルトサククス	1
12	エレクトロニックオルガン1	2	62	テナーサククス	1
13	エレクトロニックオルガン2	2	63	バリトンサククス	1
14	エレクトロニックオルガン3	2	64	オカリナ	1
15	エレクトロニックオルガン4	2	65	パンフルート	1
16	アコーディオン1	2	66	リコーダー	1
17	アコーディオン2	2	67	ハーモニカ	1
18	エレクトリックギター1	1	68	サンバホイッスル	1
19	エレクトリックギター2	1	69	サククスアンサンプル1	2
20	エレクトリックギター3	1	70	サククスアンサンプル2	3
21	トレモロギター	2	71	木管楽器アンサンプル	3
22	エレクトリック12弦ギター	2	72	コーラス	2
23	ディストーションギター	2	73	シンセリード	2
24	ジャズギター	1	74	シンセプラス	2
25	ジャズギターオクターブ	2	75	シンセストリングス	2
26	ミュートギター	1	76	シンセタム	1
27	ミュートギターエコー	2	77	ファンタジー1	4
28	スチールギター	1	78	ファンタジー2	2
29	フォークギター	1	79	ファンタジー3	4
30	12弦ギター	2	80	ベルストリングス	4
31	ガットギター	1	81	シークパッド	3
32	バイオリン1	1	82	エレクトリックベース1	1
33	バイオリン2	1	83	エレクトリックベース2	1
34	チェロ	1	84	フレットレスベース	1
35	ストリングス1	2	85	ミュートベース	1
36	ストリングス2	2	86	ミュートベースエコー	2
37	オーケストラヒット	1	87	スラップベース	1
38	ハーブ	1	88	ウッドベース1	1
39	バンジョー	1	89	ウッドベース2	1
40	ビブラフォン	2	90	シンセベース1	1
41	マリンバ	1	91	シンセベース2	1
42	スチールドラム	1	92	シンセベース3	1
43	トランペット	1	93	ポウドベース	1
44	ミュートトランペット1	2	94	スクラッチ ピッチ付	1
45	ミュートトランペット2	1	95	キック&スネア ピッチ付	1
46	ミュートトランペット3	1	96	タム ピッチ付	1
47	トロンボーン	1	97	ラテンパーカッション ピッチ付	1
48	フリューゲルホルン	1	98	パーカッション ゲート付	1
49	ホルン	1	99	パーカッション	1

エラーメッセージ一覧

資料

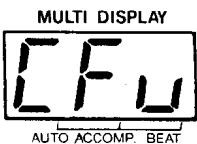
PSS-51では、操作時にトラブルが生じると、そのトラブルに応じてメッセージがマルチディスプレイに表示されます。

◆バッファーフル



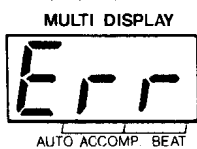
PSS-51内のマイコンの処理が間に合わず、データの欠損がおきた場合、“bFu”と表示され、すべての発音が止まります。電源を一度切って、再度入れ直してください。

◆チャンネルフル



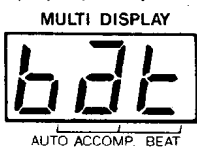
演奏中、またはMIDI情報送受信時に、1～16チャンネルの発音数の合計が本機の同時発音数の28音を越えた場合、マルチディスプレイに“CFu”と表示されます。この表示は、同時発音数が28以下になるまで続きます。
(各音色の同時発音数は56ページ参照)

◆チェックサムエラー



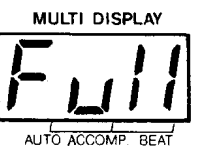
メモリーバルクダンプ受信時に、MIDI情報の受け取りに失敗すると“Err”と表示されます。この場合、本体機能はメモリーバルクダンプ受信前の状態に復帰しますが、バルクダンプデータはすべて消えてしまいます。

◆バッテリーチェンジ



電池が消耗してくると“bat”と表示され、音がひずんだり、演奏やリズムなどが途中でストップしたりします。ソングメモリー録音中または、再生中の場合、曲の一部が消失することがあります。単2乾電池を6本とも新しいもの（同じメーカー、同じ種類）と交換してください。

◆メモリーフル



ソングメモリー録音中にPSS-51のメモリー容量がいっぱいになると“Full”が表示され、それ以上録音ができなくなります。すでに録音されているソングデータの不要なものをクリアし、もう一度録音してください。

PSS-51のすべての設定を工場出荷時の初期設定に戻す方法（初期化）

- ①電源を一度切ります。
- ②[SINGLE FINGER]、[FINGERED]ボタンを同時に押しながら、[POWER]スイッチを押して再度電源を入れます。

この操作によって、レジストレーションメモリーのすべての設定、ソングメモリーに録音したすべてのソングデータ、カスタムパーカッションの設定、カスタムサウンドエフェクトの設定を含め、PSS-51内のメモリーを使って設定したすべての設定が、工場出荷時の初期設定に戻ります。自分で作ったソングデータやレジストレーションメモリーの設定などは初期化の前に、他のMIDI機器に保存したり、ノートなどにメモしておくことをお勧めします。

故障かな？と思ったら

現象	原因	解決方法
電源を入れたときに、“ポツン”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
スピーカーから音が出ない。	[MASTER]ボリュームが下がっている。	[MASTER]ボリュームを上げてください。
	ボイスエフェクトのボリューム設定が低い。	ボイスエフェクトのボリュームの設定を上げる。
	[HEADPHONES/AUX. OUT]端子にプラグが差し込んである。	プラグを抜いてください。
ボイスまたはスタイルがかわらない。	ボイスまたはスタイル設定モードになっていない。	[VOICE]または[STYLE]ボタンを押して、ボタンの上のランプが点灯すると、ボイスまたはスタイルの設定モードになります。(20, 24ページ参照)
オートアカンパニメントがスタートしない。	オーバーオールコントロールのアカンパニメントボリュームの設定が低い。	アカンパニメントボリューム設定を上げます。(25ページ参照)
	フィンガリングモードを設定していない。	フィンガリングボタン ([SINGLE FINGER]、[FINGERED]) を押してください。(26, 27ページ参照)
	オートアカンパニメントの[START]ボタンを押していない。	[START]ボタンを押してください。(30ページ参照)
	[SYNCHRO START/STOP]ボタンを押した後、アカンパニメント用鍵域を押していない。	アカンパニメント用鍵域を押してください。(26ページ参照)
ハーモニーがオンにならない。	ベクターシンセがオンになっている。	ベクターシンセをオフにしてください。
オートアカンパニメントの演奏中、押鍵コードを変えても、演奏されるコードが変わらない。	フィンガリングモードに合った指の押さえ方をしていない。	シングルフィンガーにはシングルフィンガーの押さえ方、フィンガードにはフィンガードの押さえ方があります。コードを確認して正しく押さえてください。(26, 27ページ参照)
	アカンパニメント用鍵域で、前のコードを離さないうちに、次のコードに移行しようとしている。	コードの変更は、いったん鍵盤から指を離してから、次のコードを押さえてください。
同時に押さえた鍵盤の音の中に鳴らない音がある。	同時に鍵盤を押さえ過ぎです。	PSS-51の同時発音数は28です。オートアカンパニメントやソングメモリーを使ったりすると、同時発音数を越える場合があります。(56ページ参照)
リズムが突然止まってしまった。または、マルチディスプレイに“bat”が表示され、押鍵しても音が鳴らない。	電池が消耗しています。	電池を交換してください。(4ページ参照)
上記以外で操作のコントロールが効かない。	PSS-51内部のマイコンが、静電気やその他の影響を受けて正しく動作しない。	電源を一度切って、再度入れ直してください。
		上記の操作でもまだコントロールが効かない場合は57ページのように初期化の操作をしてください。

あ

アカンパニメントコントロール	30
アカンパボリューム	25
アカンパニメント用鍵域	26
イントロ	29
エラーメッセージ一覧	57
エンディング	29
オーケストレーション	28
オートアカンパニメント	24

か

カスタムサウンドエフェクト	35
カスタムパーカッション	33
乾電池	4
キーボードパーカッション	20
クロック	50
故障かな?と思ったら	58

さ

サウンドエフェクト	34
サステイン	23
受信チャンネル	49
小節	41
初期化	57
シングルフィンガーモード	26
シンクロスタート/ストップ	30
シンクロブレイク	30
スタート/ストップ	30
スタイル	24
送信チャンネル	49
ソング番号	39
ソングメモリー	
再生	41
修正	41
録音	39

た

チューニング	46
デモ演奏	9
電源	4, 8
テンポ	25, 37
テンポ&ピッチ	37
同時発音数	54
トラック	38
トランスポーズ	46

な

ノーマル	29
------	----

は

パーカッション	32
ハーモニー	22
パンチイン/アウト	42
ピッチベンド	37
フィルイン	29
フィンガードモード	27
フィンガリング	26
フェードイン/アウト	30
ブリッジ	29
ベクターシンセ	36
ヘッドフォン	5
ボイス	20
ボイスエフェクト	22
ホイール	37
ボリューム	22

ま

マスターボリューム	8
MIDI	
インプリメンテーションチャート	55
クロック	50
受信モード	49
接続	48
送受信データ	51
送信モード	49
チャンネル	48
メモリーバルクダンプ	50
メロディー用鍵域	26
モジュレーション	37

ら

リバーブ	23
レジストレーションメモリー	31

仕様

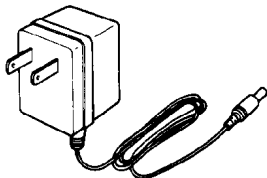
鍵盤	ミニ鍵盤61鍵 (C1~C6)	ソングメモリー	ソング番号/メジャーディスプレイ、ソング番号土、8トラック (メロディー1~5、ベクターシンセ、パッド、オートアカンブ)、レコード、クリアー、リセット、巻き戻し、ストップ、プレイ、早送り
ボイス	AWM音源100ボイス (同時発音数28)	デモ	内蔵3曲
スタイル	80スタイル	付属端子	[MIDI THRU]、[MIDI OUT]、 [MIDI IN]、 [HEADPHONES/AUX.OUT]、 [DC 9-12V IN]
セットアップ	パワースイッチ (オン/オフ)、マスタートボリューム	メインアンプ	2.25W X 2 (PA-3電源アダプター使用時) 1.56W X 2 (乾電池使用時)
ベクターシンセ	ベクターシンセ (オン/オフ)、ジョイスティック	スピーカー	10cm X 2 (8オーム)
レジストレーションメモリー	レジストレーションメモリー (オン/オフ)	定格電圧	DC 9~12V
マルチディスプレイ	テンキー0~9、±	消費電力	11.0W (電源アダプターPA-3使用時) 5.85W (乾電池使用時)
パッド	サウンドエフェクト (10グループ X 4パッド)、パーカッション (10グループ X 8パッド)	電池寿命	約5時間 (アルカリ乾電池使用時) 約2時間 (マンガン乾電池使用時) デモ演奏連続使用 (ボリューム最大)
ボイスエフェクト	ボリューム、ハーモニー (オン/オフ、15タイプ)、サステイン、リバーブ	寸法	776mm (全長) X 301.4mm (全幅) X 132mm (全高)
オーバーオールコントロール	テンポ、トランスポーズ、チューニング、アカンブボリューム、ホイール (ピッチベンド、モジュレーション、テンポ、テンポ&ピッチ)	重量	4.6kg (乾電池含まず)
MIDI	送信チャンネル1~16/クロック、受信チャンネル/クロック (オン/オフ)、メモリーバルクダンブ	付属品	取扱説明書、保証書
オートアカンバニメント	フィンガリング (シングルフィンガー、フィンガード) オーケストレーション (スモール、ミディアム、ラージ)	オプション	電源アダプターPA-3
アカンバニメントコントロール	イントロ、フィル1、フィル2、ブリッジ、エンディング、シンクロスタート/ストップ、スタート/ストップ、フェードイン/アウト、シンクロブレイク	使用電池	単2乾電池6本

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション (別売) 商品のご紹介

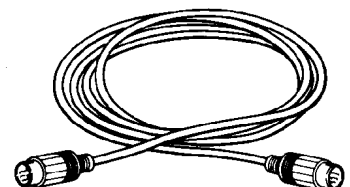
◆電源アダプター

PA-3 ¥2,000



◆MIDIケーブル

MIDI03 (3m) ¥1,100
MIDI15 (15m) ¥3,000



◆ヘッドフォン

HPE-5 ¥5,500
HPE-3 ¥3,000



◆ソフトケース

SCC-26 ¥5,000

※商品の価格には、消費税は含まれておりません。

アフターサービスと保証

資料

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1カ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1カ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店かお近くのサービス拠点宛お問い合わせください。
- お買い上げ店による補修調整
故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■ サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の「故障かな?と思ったら」の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと、故障でない場合でも点検代を申し受ける場合がございますのでご注意ください。)

■ サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内	TEL (011)513-5036
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022)236-0249
新潟サービスセンター	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F	TEL (025)243-4321
東京サービスセンター	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F	TEL (03)3255-2241
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184	TEL (044)434-3100
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL (053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 877-5262
神戸サービスセンター	〒650	神戸市中央区元町通2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内7F	TEL (078)321-1195
四国サービスセンター	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内	TEL (0878)22-3045
広島サービスセンター	〒731-01	広島市安佐南区西原2-27-39	TEL (082)874-3787
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092)472-2134
[本社] カスタマーサービス部	〒430	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL (053)465-1158

ポータサウンドに関するお問い合わせ窓口

北海道支店	LM営業課	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内	TEL (011)512-6113
仙台支店	LM営業課	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル	TEL (022)222-6140
東京支店	特販営業課	〒104	東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル	TEL (03)3572-3130
関東支店	LM営業課	〒104	東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル	TEL (03)3572-3130
名古屋支店	LM営業課	〒460	名古屋市中区錦1-18-28	TEL (052)201-5150
大阪支店	特販営業課	〒542	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館	TEL (06) 252-7491
広島支店	LM営業課	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18	TEL (082)244-3749
九州支店	LM営業課	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092)472-2130
国内営業統括本部				
LM営業部	ポータブル楽器営業課	〒104	東京都中央区銀座7-9-18 パールビル8F	TEL (03)5568-2937

※ 住所および電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

VN81070 JCAIR0PT1.3CDP © 1992 Yamaha